

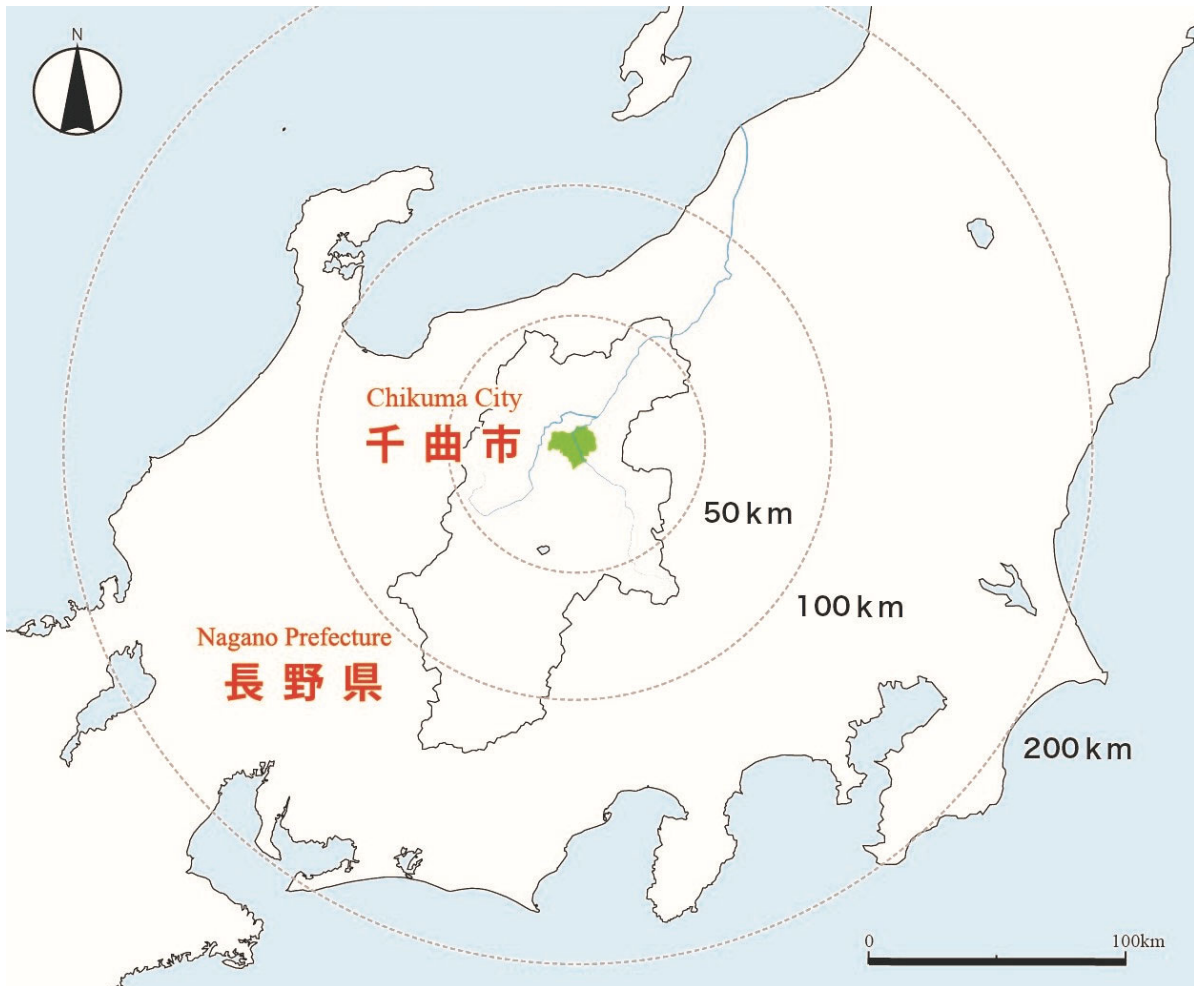
第1章 千曲市の歴史的風致形成の背景

1. 自然的、地理的環境

(1) 千曲市の位置

千曲市は、長野県の北部に位置する千曲川中流域の地方都市であり、東京から約 160 km、名古屋からは約 180 kmの距離を測る。

平成 15 年(2003)9月1日、更埴市・戸倉町・上山田町の1市2町が合併し誕生した。^{ながの}長野市、^し坂城町、^{さか き まち}上田市、^{う え だ し}麻績村、^{お み む ら}筑北村に接し、市域は東西 15km、南北 12km に広がる。総面積は 119.79km²である。標高の最高地点は坂城町に接する大林山の 1,333m、最低地点は市の北東の土口地区の千曲川下流端の 353mで、標高差は 980mである。



（２）地形、地質、水系

ア 地形

本市の地形は千曲川の両岸に広がる沖積地と、東西の山麓に形成された扇状地を含む中山間地、背後の山地に大別される。背後の山地は西部に冠着山(1,252m)と三峯山(1,311m)、東部に鏡台山(1,269m)、南西には大林山(1,333m)をはじめとする山々となっている。千曲川右岸の東部山地は急峻で標高が高く、左岸の西部山地は三峯山の姨捨土石流堆積物に覆われていることから緩斜面となっている。

千曲川は市域中央部で北西から北東方向に流路を変え、山地との間に広大な後背湿地を形成している箇所もある。この後背湿地は古墳時代から耕作地として利用されてきており、現在も市内有数の穀倉地帯となっている。

（ア）山地

本市は中央を千曲川が北流し、東西に山地が形成されているが、その山容は大きく異なっている。西部山地はなだらかな山容を呈しており、冠着山、三峰山の山麓には「大池自然の家」や「坊城平いこいの森」といった市民のレクリエーション施設が設置されている。一方、東部山地は急峻な山容を呈しており、人が立ち入ることが困難な地形となっている。



大池自然の家

（イ）中山間地

山地と沖積地の間には、中小河川によって形成された扇状地が広がっている。また、西部山地の三峰山の裾には土石流によって形成された「姨捨土石流台地」が広がっている。

東部地区の中山間地は宅地となっているほか、リンゴやアンズ、ブドウといった果樹園となっている。一方、西部地区は果樹栽培が行われているほか、姨捨土石流台地では豊富な湧水を利用した棚田が拓かれ、その周囲に農村集落が形成されている。



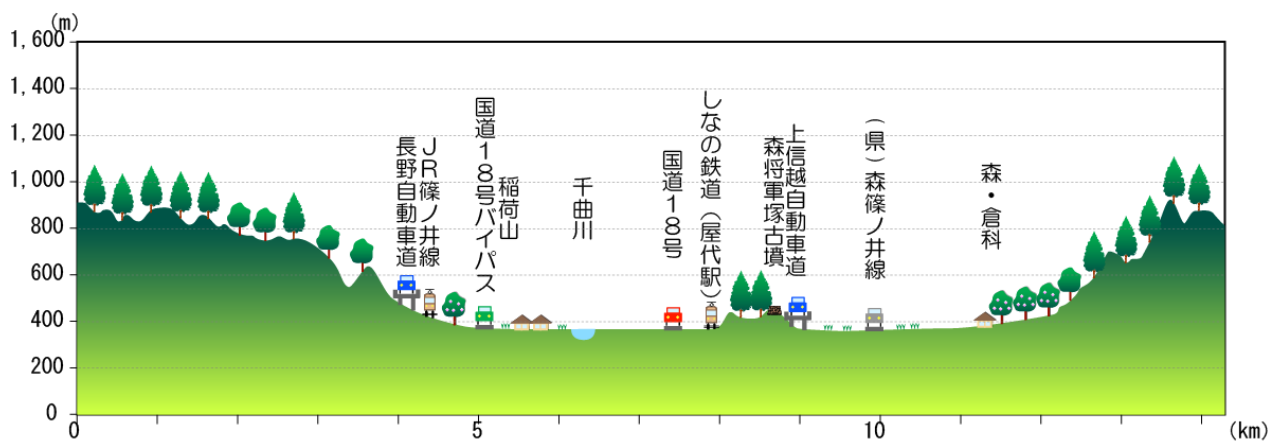
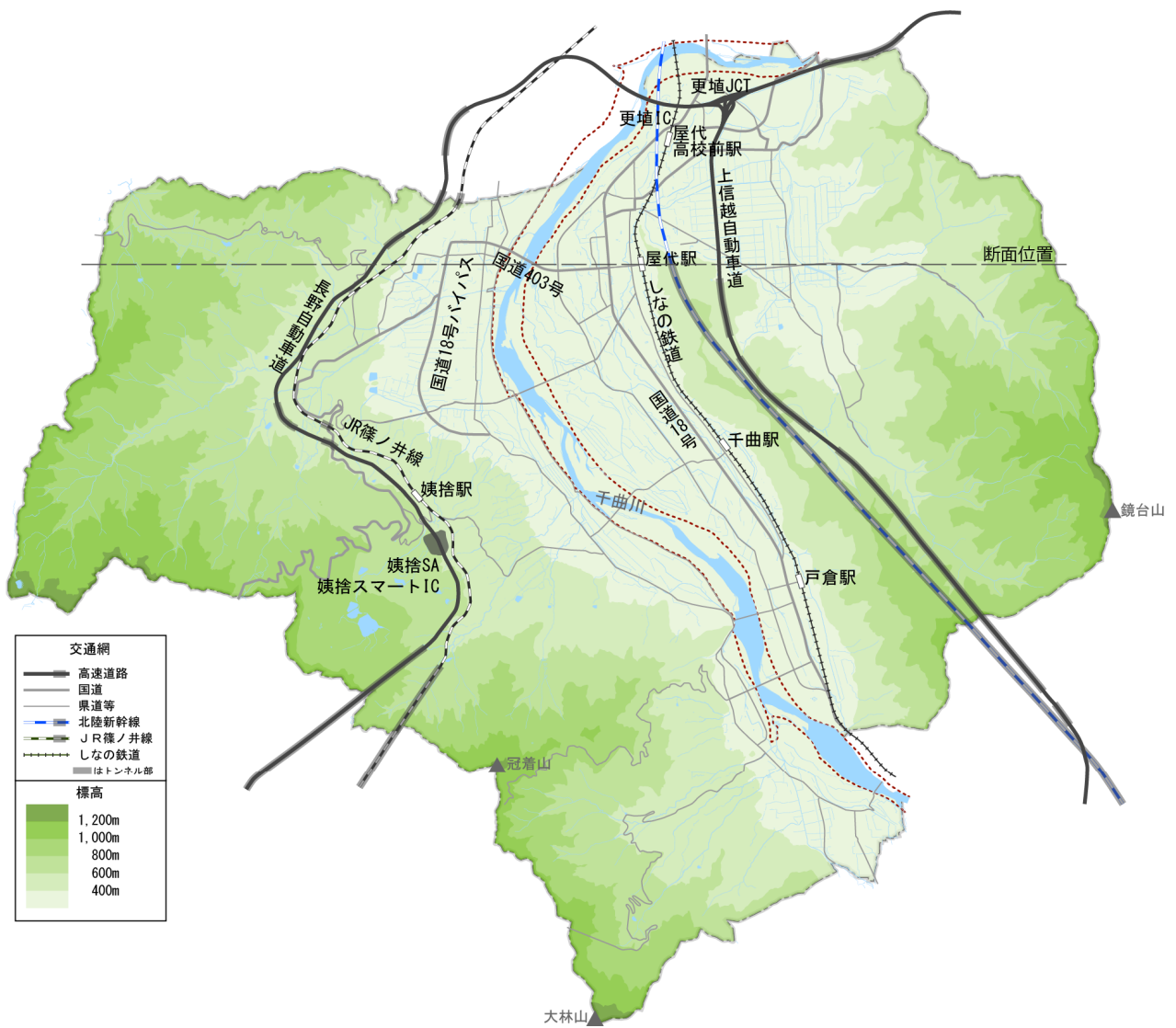
姨捨の棚田と冠着山

（ウ）千曲川沖積地

千曲川の両岸には、氾濫原と後背湿地からなる沖積地が形成され、市街地及び水田地帯となっている。北東部と南西部には広大な後背湿地が形成され、市内有数の穀倉地帯となっている。千曲川の氾濫原は、かつては水田地帯であったが宅地化が進んでいる。



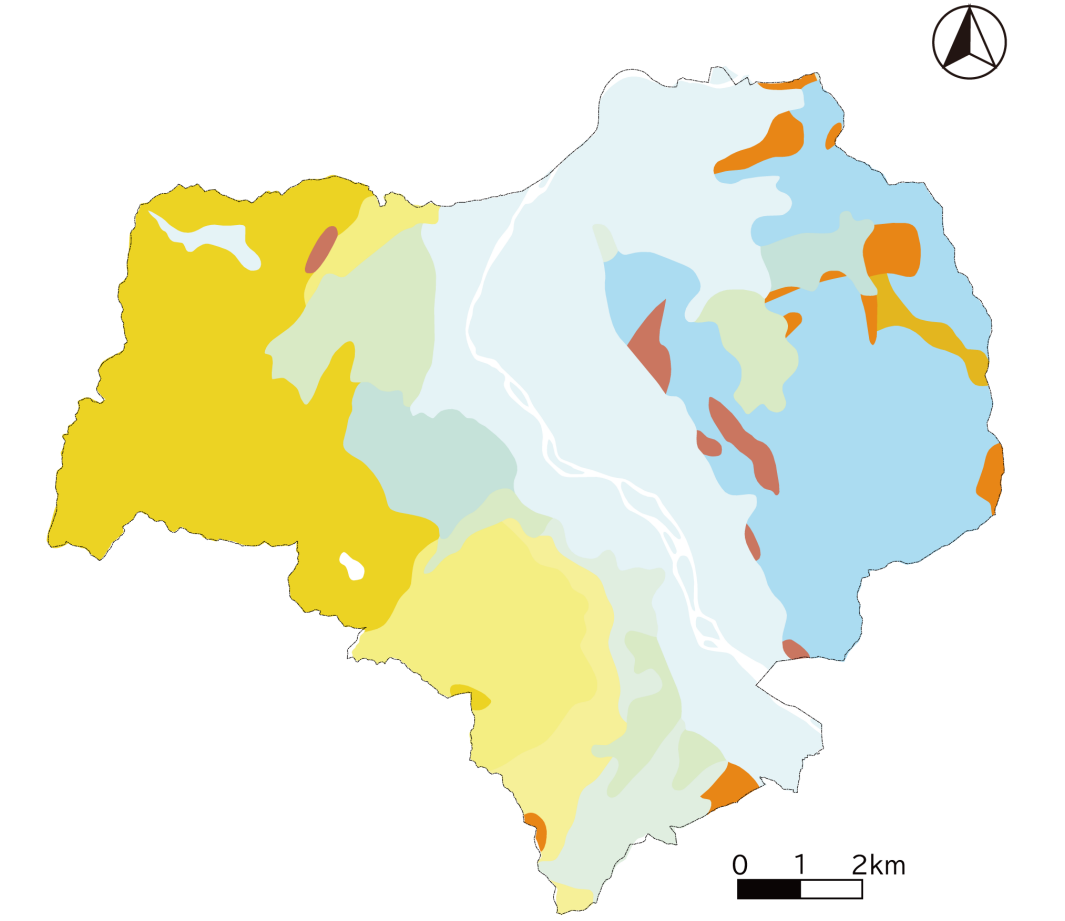
沖積地に広がる千曲市街地



千曲市の地形

イ 地質

本市は長野盆地と上田盆地の間の^{きょう さく ぶ}狭窄部に位置し、中央を直轄河川の千曲川が北流する。長野盆地東部の山地には第三紀中新世の堆積岩類とこれを貫く貫入岩類が広く分布する。これに対し、西部山地に堆積する第三紀層は東部に比べて新しく、^{かん にゅう かん るい}裾花凝灰岩層が带状に広がっている。



凡例	形成時代	区分	
	新生代 第四紀 更新世 後期チバニアン期～完新世	堆積岩	地すべり堆積物
	新生代 第四紀 後期更新世後期～完新世	堆積岩	扇状地・崖錐堆積物
	新生代 第四紀 完新世	堆積岩	谷底平野・山間盆地・河川・海岸平野堆積物
	新生代 新第三紀 中新世 バーディガリアン期～前期ランギアン期	堆積岩	海成層 泥岩
	新生代 新第三紀 中新世 バーディガリアン期～前期ランギアン期	火成岩	安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火砕岩
	新生代 新第三紀 中新世 後期ランギアン期～トートニアン期	堆積岩	海成層 砂岩泥岩互層
	新生代 新第三紀 中新世 後期ランギアン期～トートニアン期	火成岩	デイサイト・流紋岩 貫入岩
	新生代 新第三紀 中新世 後期ランギアン期～トートニアン期	火成岩	安山岩・玄武岩質安山岩 貫入岩
	新生代 新第三紀 中新世 メッシニアン期～鮮新世	堆積岩	海成層 砂岩
	新生代 新第三紀 中新世 メッシニアン期～鮮新世	火成岩	デイサイト・流紋岩 溶岩・火砕岩
	新生代 新第三紀 中新世 メッシニアン期～鮮新世	火成岩	安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火砕岩

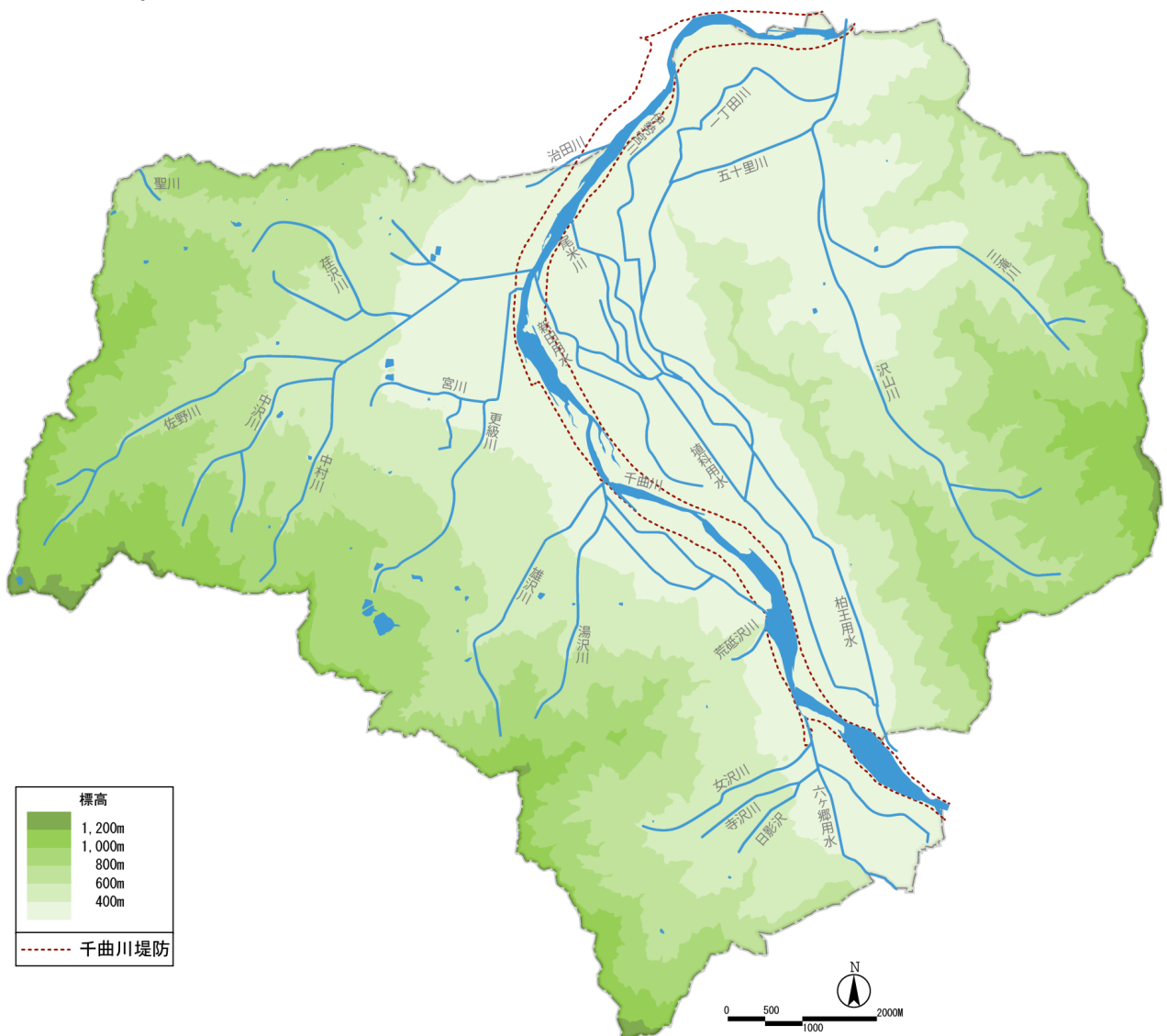
千曲市の地質

(産総研地質調査総合センターウェブサイト(<https://gbank.gsj.jp/geonavi/>))から引用し、加工した図を使用)

ウ 水系

千曲川は、信濃川水系の一部とされ、長野県・埼玉県・山梨県の県境に位置する甲武信ヶ岳を源流とし、新潟県境の栄村までの214kmをいい、新潟県に入ると信濃川と名前を変える、全長367kmの日本最長の河川である。市域では、上流の坂城町境から下流の長野市境まで、約13kmを流れている。

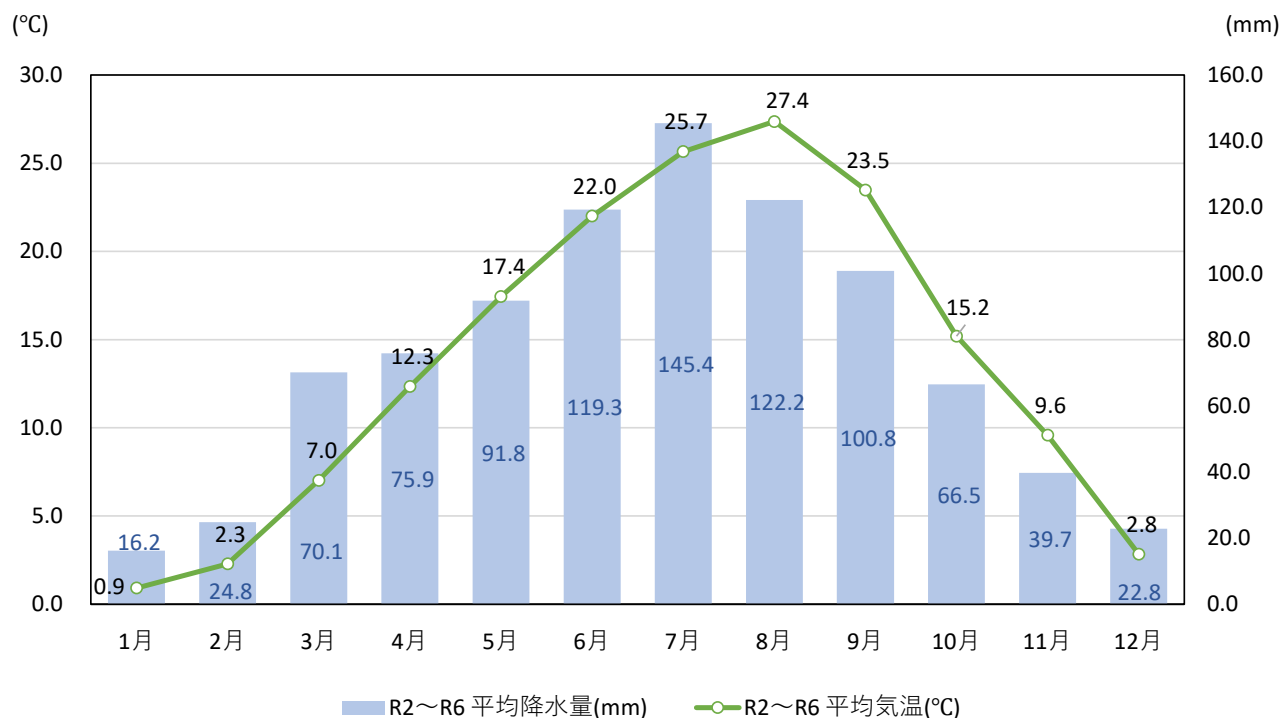
千曲川には東西の山地から佐野川、三滝川といった中小河川が流れ込んでおり、扇状地を形成している。扇状地先端部及び氾濫原には豊富な地下水が湧出し、飲料として使用されてきた。また、西部山腹には「七頭」と呼ぶ複数の湧水があり、飲料水や酒造、農業用水として利用されてきた。



千曲市の主な河川

(3) 気候

気候は内陸性の気候で、平地部の年平均気温は 12～13℃と比較的冷涼であるが、年間を通して1日の気温差が大きく、特に5月は日最大較差が30度近くに達する日もある。また、日照時間が長く晴天率も高く、四季の変化がはっきりしている。降水量は年間800mm程と少なく、夏季(5月～9月)に年間降水量の6割ほどの雨が降る。



月別気温と降水量(「千曲市統計書 2024 年版」)

2. 社会的環境

(1) 市域の変遷

千曲市域では、明治時代初期に 22 町村が存在したが、明治 22 年(1889)の市制・町村制施行により 13 町村に合併した。さらに、合併・分村などを経て昭和 30 年(1955)に埴科郡戸倉町と更級郡上山田町が、昭和 34 年(1959)に更埴市が発足した。平成 15 年(2003)には、平成の大合併により更埴市・戸倉町・上山田町の3市町が合併し、千曲市が誕生した。市の名称は、市民による投票の結果、市域中央を流れる千曲川より名付けられた。

	近世	明治4年～明治13年	明治14年～明治21年	明治22年～大正15年	昭和元年～昭和29年	昭和30年～昭和64年	平成元年～
埴科郡	倉科村					昭和31年9月30日 屋代町に編入	昭和34年6月1日 更埴市 平成15年9月1日 千曲市
	雨宮村			明治22年4月1日 雨宮縣村			
	土口村						
	生萱村						
	森村				昭和30年4月1日 埴科屋代町	昭和30年6月1日 改称 屋代町	
	矢代村	明治5年3月改称 屋代村	明治14年1月28日 屋代町	明治22年4月1日 屋代町			
	粟佐村	明治9年5月30日 西船山村	粟佐村 明治15年2月18日				
	杭瀬下村		西船山村 杭瀬下村 明治15年11月27日	明治22年4月1日 杭瀬下村			
	新田村		新田村				
	寂蒔村		明治14年5月23日 寂蒔村		昭和29年10月1日 埴生町	昭和30年7月1日 五加村の中地区編入	
	鑄物師屋村	明治9年5月30日 東船山村	鑄物師屋村	明治22年4月1日 埴生村	昭和23年3月1日 埴生町	昭和30年9月25日 野高場を稲荷山桑原町へ分村	
	打沢村		打沢村				
	桜堂村		桜堂村				
更級郡	小島村		小島村				昭和30年7月1日 戸倉町
	稲荷山村	昭和8年7月 稲荷山町				昭和30年4月1日 稲荷山桑原町	
	桑原村					昭和30年12月1日 稲荷山町	
	八幡村						
	志川村						
	郡村	明治6年6月15日 八幡村					
埴科郡	八幡領						昭和30年7月1日 戸倉町
	大池新田村						
	内川村				昭和30年7月1日 中地区を埴生町へ分村		
	上徳間村	明治5年7月 千本柳村	明治8年5月改称 黒彦村	上徳間村 明治14年5月25日	明治22年4月1日 五加村		
	千本柳村			千本柳村			
	向八幡村 (旧中村)	明治6年2月15日 向八幡村		中村 明治15年9月2日			
	小船山村			小船山村			
	下戸倉村		明治14年1月28日改称 戸倉村	明治22年4月1日 戸倉村	昭和15年4月17日 戸倉町	昭和30年4月1日 戸倉町	
更級郡	上戸倉村	明治7年7月5日 磯部村					昭和30年7月1日 上山田町
	福井村						
	若宮村						
	羽尾村			明治22年4月1日 更級村			
	須坂村						
	上山田村			明治22年4月1日 上山田村	明治25年10月14日 上山田村	昭和24年11月3日 上山田町	
更級郡	新山村						昭和30年7月1日 上山田町
	力石村						

市域の変遷表

明治 22 年町村制施行時～昭和 30 年代の合併まで



昭和 30 年代の合併～千曲市誕生まで

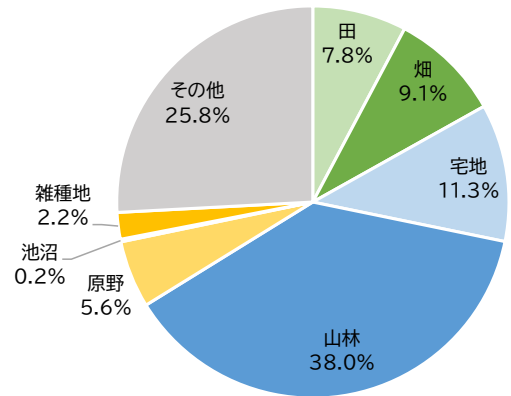


市域の変遷図

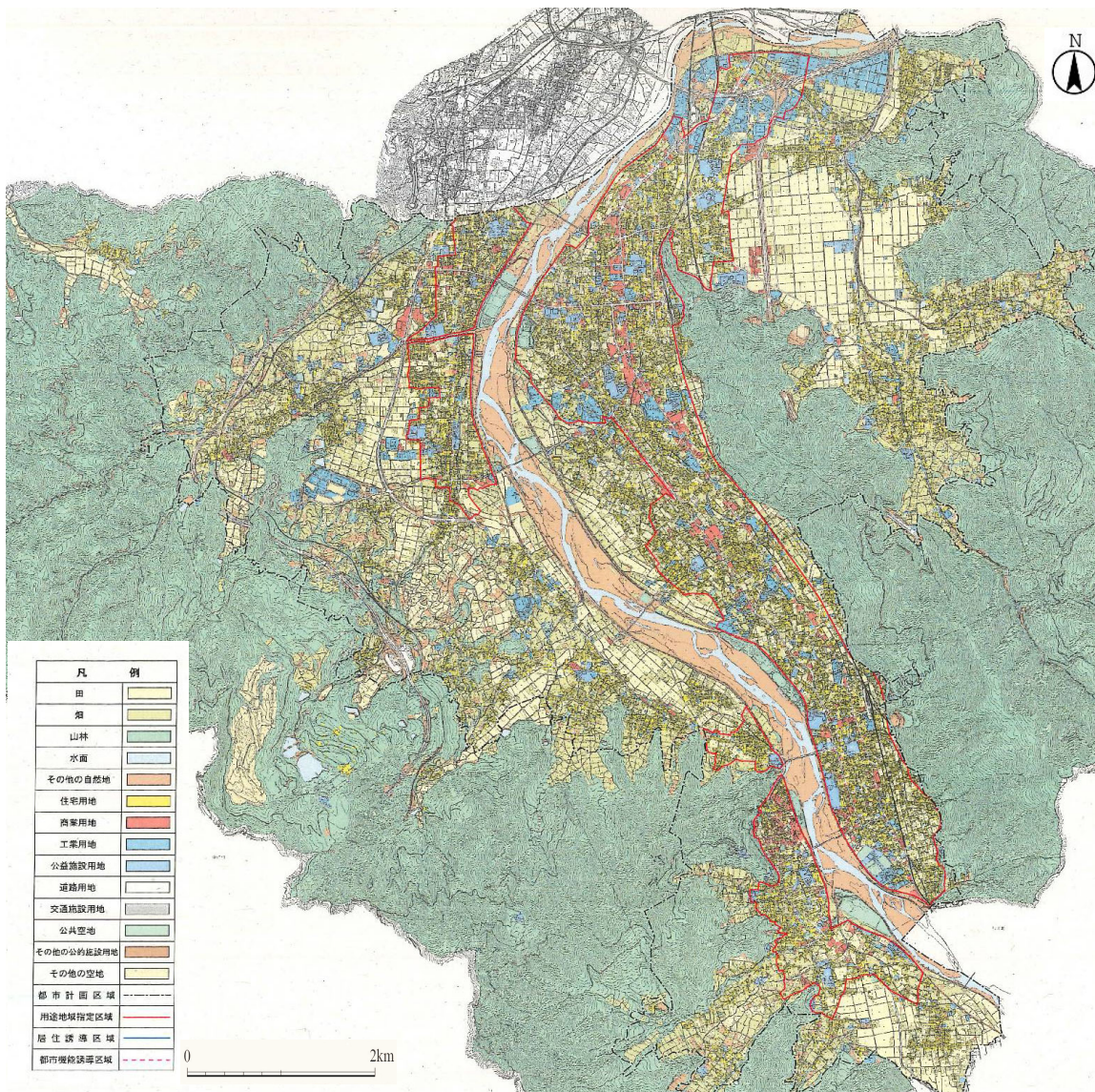
(2) 土地利用

千曲市の面積は、119.79 km²(11,979ha)である。その土地利用は、山林が 38.0%を占め、最も多い。ついで、その他(道路・水路・公園等)が 25.8%、農用地(田・畑)が 16.9%、宅地が 11.3%となっている。

また、市域のうち、都市計画区域は約 49.2% (5,900ha)、用途地域は、約 12.1% (1,452ha)である。都市計画区域における土地利用の状況は自然的土地利用が 61.4%(農地 30.2%、山林 20.6%)で、残りの 38.6%が都市的土地利用となっている。用途地域指定区域においては、自然的土地利用が 23.6%、都市的土地利用が 76.4%である。



地目別土地面積
(「千曲市統計書 2024 年版」)



土地利用現況図(令和2年度(2020) 都市計画基礎調査)

(3) 人口動態

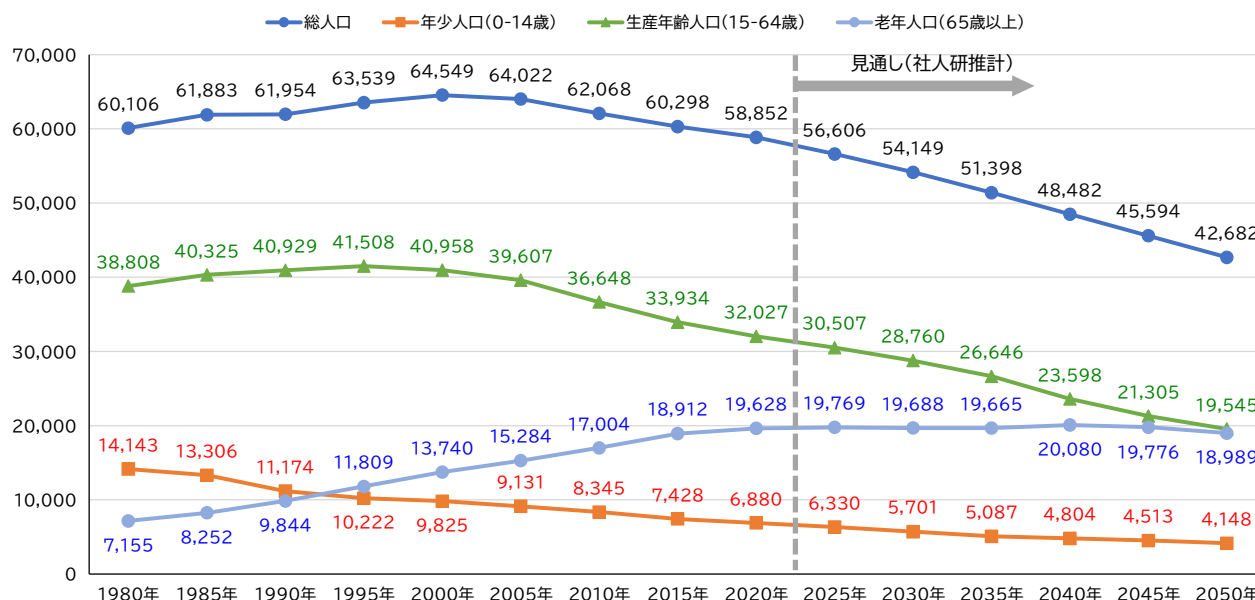
ア 人口の推移

昭和45年(1970)以降、増加傾向にあったが、平成12年(2000)をピークに減少傾向がみられ、平成27年(2015)では60,298人となり、令和2年(2020)国勢調査結果では58,852人である。

年齢3区分別人口は、平成27年(2015)時点で年少人口(0～14歳)が6,880人(11.8%)、生産年齢人口(15～64歳)が32,027人(54.7%)と、前回国勢調査時と比較すると減少傾向となっている。一方、高齢者人口(65歳以上)は19,628人(33.5%)と大幅な増加傾向を示しており、少子高齢化が進んでいる。国立社会保障・人口問題研究所の推計をみると、令和32年(2050)には42,682人になると推計される。人口減少は地域経済の縮小を招き、市民の経済力の低下につながる懸念される。また、農地・山林などの周辺環境、土地利用の構造、社会インフラ、社会保障制度など、地域社会の基盤の維持に大きな影響を与えるものと見込まれる。一方、核家族化の進行及び単独世帯の増加などにより、総世帯数は増加しつづけている。

イ 人口の分布

川西地区・川東地区ともに千曲川に沿った平地部に集中している。また、川東地区には約39,000人と、総人口の2/3が居住している。500m四方あたりの人口が1,000人以上を超えている区画は3区画で、戸倉駅南側の1区画と稲荷山地区の2区画がある。川東地区は、国道18号や都市計画道路千曲線(市道)沿いに比較的高密度の傾向にあり、川西地区では各地区の主要地方道長野上田線沿いに居住域がまとまっている。



※総人口は年齢不詳の者を含む

人口の推移

(2020年まで「国勢調査」、2025年以降 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」)

(4) 交通

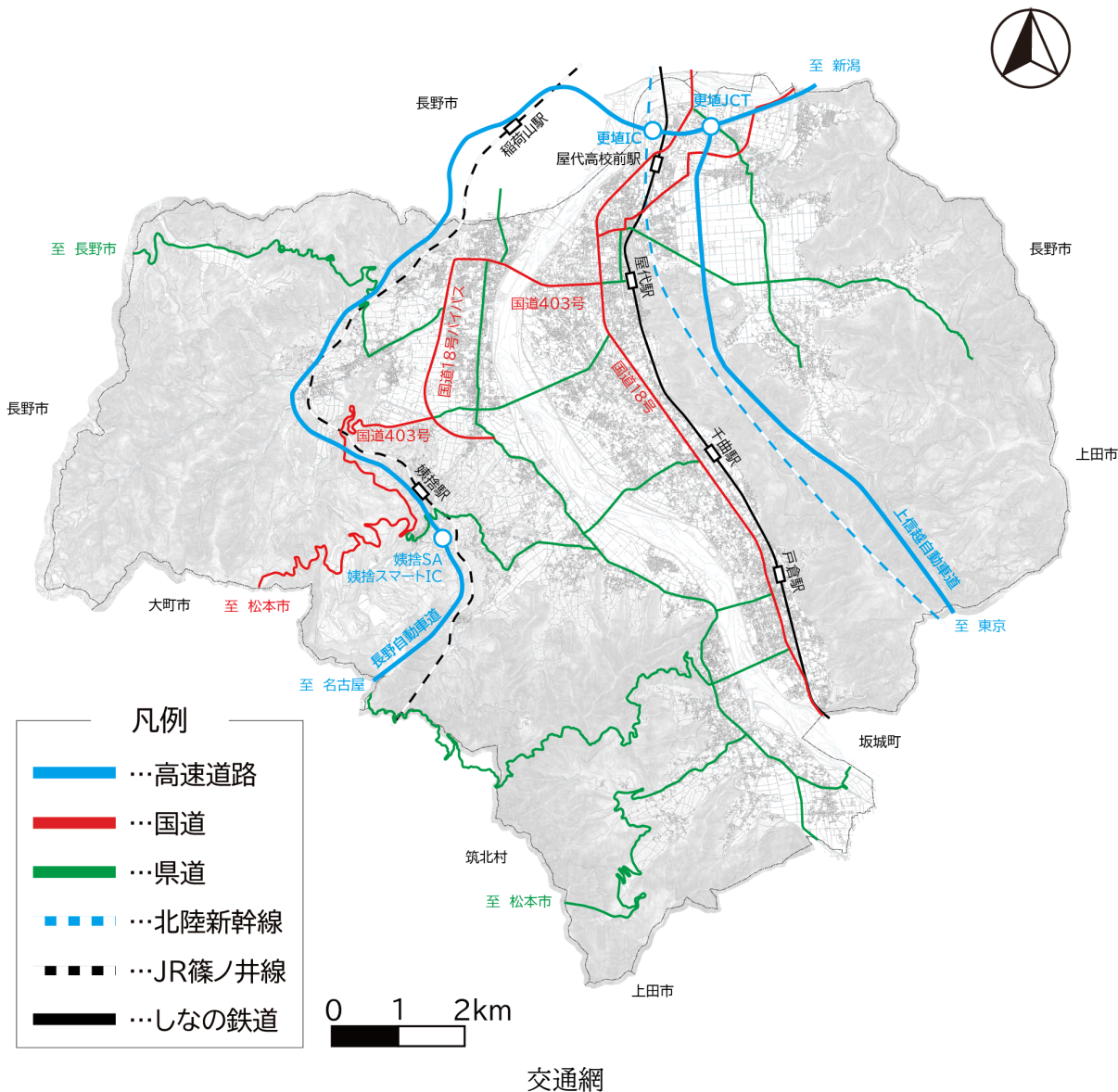
ア 鉄道

北陸新幹線、JR篠ノ井線としなの鉄道線が通過し、JR篠ノ井線は姨捨駅が、しなの鉄道線は屋代高校前、屋代、千曲、戸倉の各駅が設置されている。屋代―松代―須坂を結んでいた長野電鉄屋代線は、平成 24 年(2012)3月に廃線となり、代替バス路線が運行されている。

イ 道路

高速自動車国道には、長野自動車道と上信越自動車道があり、市内には両道路が合流する更埴ジャンクション、更埴インターチェンジと、姨捨スマートインターチェンジがある。

一般道路は、北国街道、北国西街道(以下、善光寺道)、谷街道などを原型とした国道 18 号線、国道 403 号線が現在も幹線的機能を有している。さらに、国道 18 号バイパス八幡一稻荷山間、坂城一上山田間が一部供用されている。



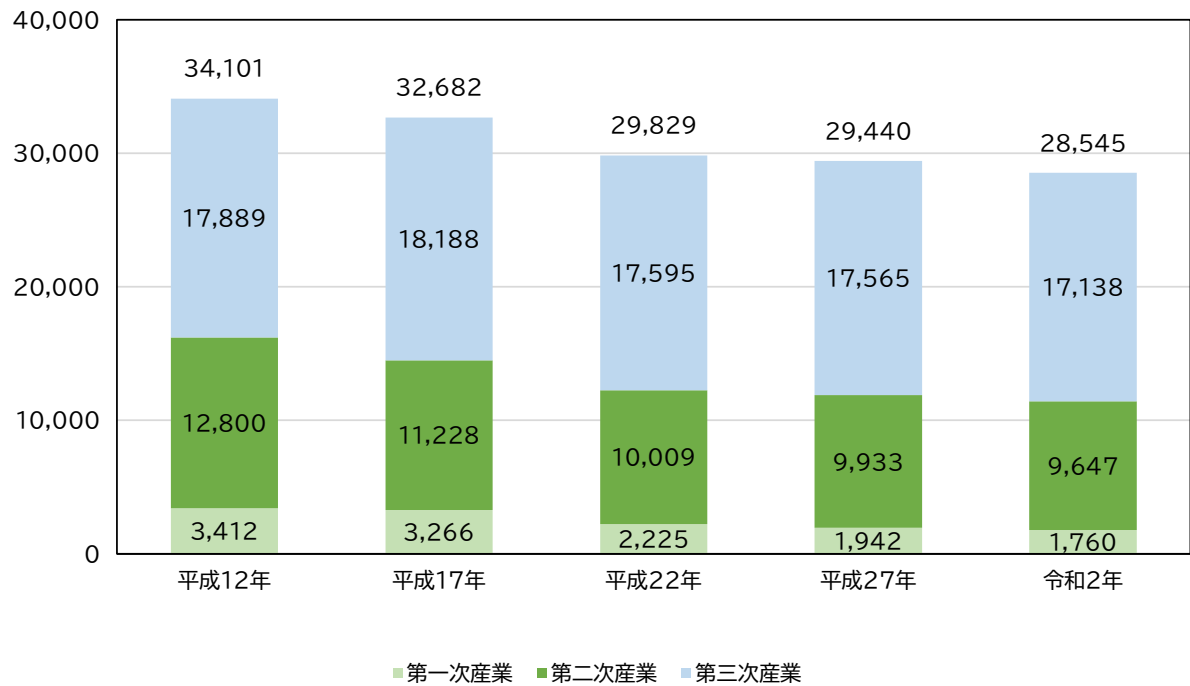
(5) 産業

ア 就業人口

平成7年(1995)以降減少傾向を示している。特に、第1次・第2次産業の就業者が減少しており、第3次産業の就業者の比率が市全体の約6割を占める状況となっている。

これをさらに細かくみると、第2次産業の製造業が全体の 26%と最も多く、次いで第3次産業の卸売・小売業が 15%となっている。

(人)



就業人口の推移(「国勢調査」)

	区分	人数(人)
第一次産業	農業	1,740
	林業・狩猟業	20
	合計	1,760
第二次産業	鉱業・採石業	7
	建設業	1,973
	製造業	7,667
	合計	9,647
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	67
	情報通信業	395
	運輸業、郵便業	1,295
	卸売業、小売業	4,149
	金融業、保険業	463
	不動産業、物品賃貸業	325
	サービス業	9,576
	公務	868
	合計	17,138
総合計		28,545

令和 2 年(2020)産業別就業人口(「千曲市統計書 2024 年版」)

イ 第一次産業

就業者が減少しているが、主力である水稻やリンゴ、ブドウなどが栽培されており、近年はワイン用ブドウの栽培にも力を入れている。また、特産であるアンズなどの加工品開発や販売を進めており、生産者、加工者、販売者と連携し、「信州千曲ブランド」の展開に取り組んでいる。

ウ 第二次産業

就業者数が最も多い製造業では、加工組立型産業の比率が高い。屋代、雨宮地区の産業団地には、半導体関連企業が集積しており、本市の製造業の特色の一つとなっている。また、衣料品製造で全国有数のシェアを誇る企業も立地している。

エ 第三次産業

県内有数の温泉地である戸倉上山田温泉を擁していることから、宿泊・飲食サービス業に従事している就業者に特徴が見られる。近年では、本市が交通の結節点に位置していることから、物流関係の企業の進出がある。

(6) 観光

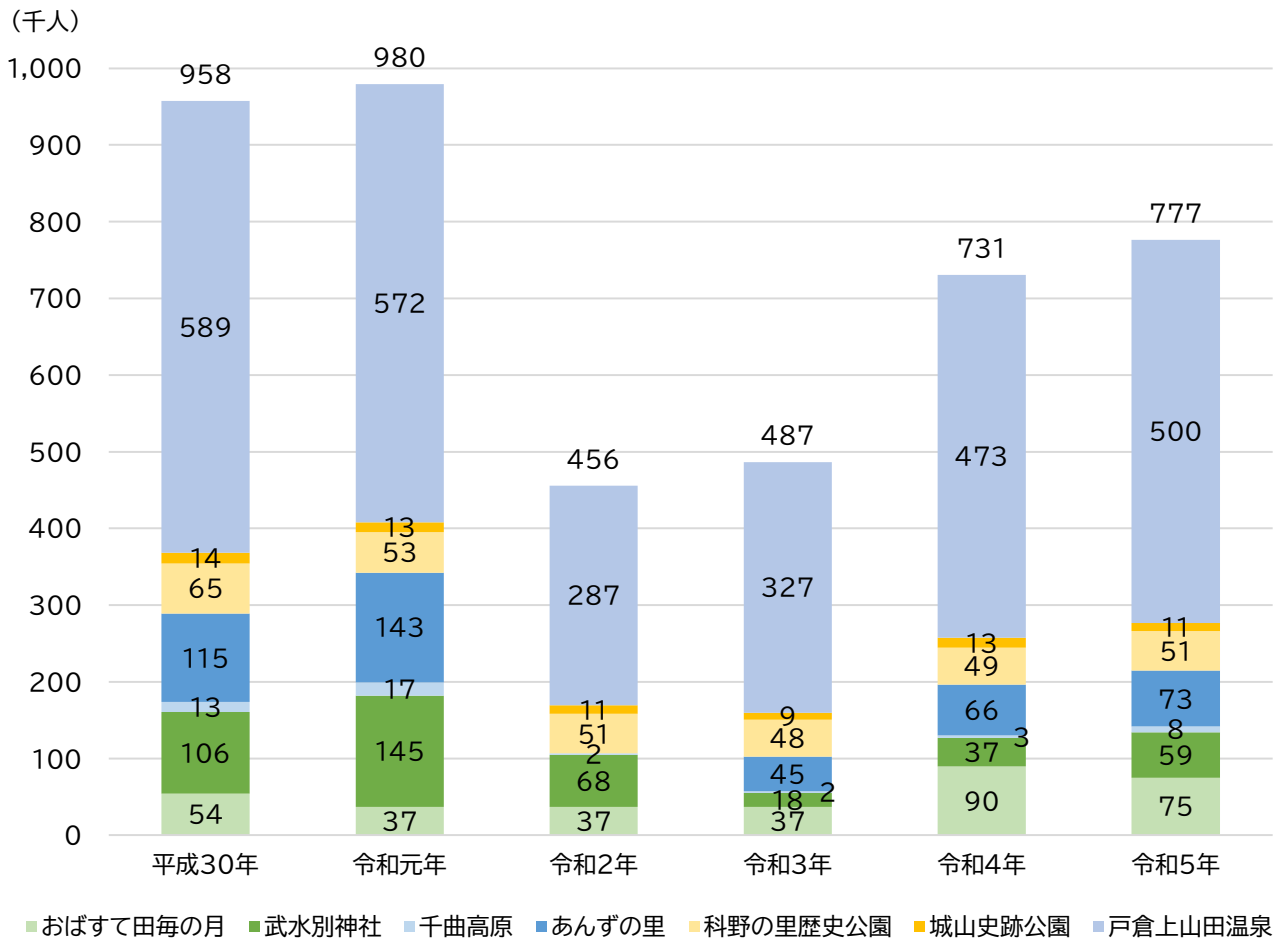
千曲市の主な観光地は、戸倉上山田温泉をはじめとしてあんずの里、武水別神社たけみずわけじんじや、科野しなのの里歴史公園、姨捨の棚田などがあり、新型コロナウイルス感染症の拡大前は年間 100 万人近い観光客が訪れていた。新型コロナウイルス感染症の拡大により 40 万人代まで落ち込んだ観光客は、令和 5 年(2023)には 70 万人代まで回復したものの、その影響がまだ残っている。

また、あんずまつりや、戸倉上山田温泉夏祭り、千曲川納涼煙火大会、千曲川のつけばやアユ釣りなど、四季折々のイベントにも多くの人が訪れている。令和2年度に実施した観光に関する市民アンケートの結果、市民から他人に勧めたい観光資源が、姨捨の棚田、森將軍塚古墳・古墳館、戸倉上山田温泉、武水別神社の順で挙げられており、文化財が上位を占めている(『第三次千曲市観光振興計画』)。

首都圏、北陸新幹線沿線の県を対象にした「戸倉上山田温泉・千曲市GAP調査(平成 26 年)」における戸倉上山田温泉・千曲市のイメージとしては、「温泉街」、「千曲川」、「美しい自然」、「歴史がある」などのイメージが上位に位置づけられている。

令和2年(2020)6月19日には姨捨地区を中心に川西地区一帯が日本遺産「月の都千曲ー姨捨の棚田がつくる摩訶不思議な月景色「田毎の月」ー」に認定された。観月をテーマに、姨捨の棚田や麓の八幡地区、稲荷山など有形無形 29 の文化財を一つのストーリーにしたもので、今後、月をテーマにした観光戦略を推進することで、認知度の上昇による、更なる集客が期待される。

観光地の利用者数をみると、戸倉上山田温泉、あんずの里、武水別神社たけみずわけじんじやが観光誘客に貢献している。戸倉上山田温泉の利用者数の減少が千曲市全体の観光入り込み客数の低下に影響を及ぼしているとされている。令和2・3年の新型コロナウイルス感染症の拡大による、宿泊者数の減少は深刻であり、令和5年(2023)においてもコロナ前の 8 割程度にとどまっている。



観光地利用者数の推移(「千曲市統計書 2024 年版」)

3. 歴史的環境

(1) 原始

ア 旧石器時代

千曲川両岸の山間部、大田原地区(左岸)佐野山遺跡、森地区(右岸)沢山遺跡で石器が採集されている。1万年以上前、千曲市における最初の人びとの足跡を認めることができる。

イ 縄文時代

定住がはじまる縄文時代では、千曲川左岸に池尻遺跡(大田原地区)、大池南遺跡(八幡地区)、円光房遺跡(更級地区)、新屋遺跡(上山田地区)といった遺跡が点在する。千曲川右岸の屋代遺跡群では地表下4mから縄文時代前期から中期の集落が発見された。千曲川の沖積地に生活の場が展開された背景には、千曲川の豊かな漁場があったものと考えられる。屋代遺跡群の住居跡からは、サケの魚骨が見つかり、暮らしに千曲川が大きく関わっていたことがわかる。



屋代遺跡群の縄文時代集落

ウ 弥生時代

弥生時代になると、人びとの生活の主体は千曲川が形成した自然堤防上となり、その背後の湿地で水田耕作を営み始めた。屋代遺跡群では後背湿地に展開する屋代田んぼの地下から、当時の小区画水田跡が見つかっており、近年では、雑穀を合わせた複合的な栽培も指摘されている。こうした、稲作を中心とした植物栽培の発達にともなう地域社会の変化は、日常で使用される土器に現れる。弥生時代後期になると箱清水式土器を用いた土器使用圏が千曲川水系に広がり、赤く塗られた土器の容姿から「赤い土器のクニ」と呼ばれる。弥生時代の終わりには、東海地方と交流が盛んになるが、御屋敷遺跡(上山田地区)では東海地方のデザインをもった土器が出土しており、古墳出現前夜における地域社会の変動を読み取れる。



市指定有形文化財
御屋敷遺跡出土土器

エ 古墳時代

古墳時代には、近畿地方の有力者と関係を深め、中央と地方の関係が構築されはじめる。こうした政治的関係を今に伝えるのが、前方後円墳をはじめとする有力者の古墳である。古墳時代前期中頃には、県下最大の前方後円墳である森將軍塚古墳(屋代地区)が最初に築かれ、次いで前期末には有明山將軍塚古墳、中期前半には倉科將軍塚古



史跡 埴科古墳群 森將軍塚古墳

墳、中期中頃には土口將軍塚古墳が尾根を越える山上に築かれた。中期後半以降になると、善光寺平での前方後円墳の新たな築造は低調となり、長野市大室古墳群や杉山・矢ノ口古墳群(倉科地区)には、積石塚古墳が築かれた。その特徴から、渡来人集団との関係が示唆される。

後期後半以降は、塚穴古墳(稲荷山地区)、白塚古墳(森地区)、中山古墳(戸倉地区)、観音林古墳(上山田地区)など横穴式石室を持つ円墳が築かれた。

(2) 古 代

ア 埴科郡衙と古代寺院

大宝4年(704)に鑄造された諸国印により、「科野(の)国」が「信濃国」と表記されるようになったが、引き続き「科野」も使われることもあった。

千曲市では、千曲川を挟んで更級郡と埴科郡が置かれた。埴科郡は、屋代遺跡群の発掘調査において発見された木簡によって、屋代地区に埴科郡の役所(郡衙)が存在していたことが確認されている。また、初期の信濃国衙についても、「符更科郡司等可口」と記された国符木簡から、関連施設の存在が推察される。さらに、郡司が「屋代郷長里正等」に宛てて発した郡符木簡から、「大穴郷高家里」、「舟山柏寸里」、「船山郷井於里」など、郡の下に郷や里が併存した郡郷里制という行政村落の存在も明らかになっている。

『三代実録』の貞観8年(866)2月2日条には、「信濃国埴科郡屋代寺」が定額寺(準官寺)に格上げされたことが記されている。この屋代寺は、雨宮地区で確認された雨宮廃寺であると考えられるが、役所や寺など、当時の主要な施設が設けられた背景には、東山道支道が通過し、古代から交通の要衝であったことが関係しているとみられる。



雨宮廃寺出土の瓦

イ 仁和の洪水

このような地方官衙や氏寺を中心とした繁栄は、仁和4年(888)に発生した大洪水で一変する。いわゆる「仁和の洪水」と呼ばれるこの洪水は、仁和3年(887)に発生した地震により、八ヶ岳の天狗岳の山体が崩壊し、千曲川の上流がせき止められたことに起因する。形成された天然のダムは翌年6月に決壊し、屋代地区一帯が大洪水の砂に覆われる被害に見舞われ、壊滅的な被害を受けた。『日本紀略』に「仁和4年(888)、信濃国大水ありて山崩れ河溢れる」と記載されている。屋代地区では厚いところで3mもの洪水砂の堆積が確認されている。



仁和の洪水砂の堆積

地震や災害などから復興を遂げた平安時代後期には、埴科郡九条城興寺領倉科荘や加納屋代四ヶ村、船山荘青沼郡、更級郡石清水八幡宮領小谷荘、伊勢神宮領村上御厨などの荘園が成立した。

ウ 更級郡と月の名所

千曲川左岸の更級郡は、冠着山(姨捨山)の裾を都に通じる東山道の支道が通り、更級郡衙(古代の役所)が麓に置かれていたと推定される。更級郡衙は、大字八幡字郡付近をはじめ複数の推定地があるが、武水別神社に加え、掘立柱建物跡や六角宝幢などが出土した社宮司遺跡がある八幡地区が有力な候補地として挙げられる。

更級郡一帯は、平安時代頃から月の名所として知られるようになった。「我が心慰めかねつ更級や姨捨山に照る月を見て」は、『古今和歌集』に集録された当地最古の和歌である。

官人や旅人にとって、最短ルートとして山裾を行き来する際、冠着山はランドマークであり、月を仰ぎ見て都から遠く離れた心情を和歌に詠んだ。和歌を通して冠着山の月を知った京の都人らは、未だ見ぬ照る月を見たいと思うとともに寂しさや哀れを想い浮かべたと考えられる。



月の名所 姨捨山(冠着山)

(3) 中世

ア 荘園の形成

平安時代中期以降、荘園はますます発達増加し、地方豪族は所領の保護のために中央の寺院あるいは権力者に所領を寄進し、自衛することで所領の保護を図った。

市内では、九条城興寺領として倉科庄(倉科地区)・加納屋代四ヶ村(屋代地区)、石清水八幡宮領として小谷庄(八幡地区)、伊勢神宮領として村上御厨(坂城町・上山田地区)などの荘園があり、国衙領の船山郷(埴生地区・五加地区)もあった。地域開発が活発になされ、中央とのつながりが密接であったことを物語っている。

イ 村上氏のおこり

鎌倉・室町時代を通じて、更級・埴科地域に栄えた村上氏は、源惟清一族の源盛清が更級郡村上郷(上山田地区、坂城町)に流罪となり、その子孫が地名にちなんで「村上氏」を称したことによると伝わる。『市河文書』には、船山郷に船山守護所が置かれ、室町幕府方と旧鎌倉幕府方の合戦がたびたび行われたことが記されている。南北朝の動乱の中、後醍醐天皇の皇子宗良親王(南朝方)が、更級郡姨捨山(冠着山近くの更級の里)に、一時居を構えたとの伝承が残り、更級地区には、「築地御所」と呼ばれる地籍がある。

ウ 川中島の合戦

戦国時代には、信濃への甲斐の武田信玄の侵攻に対し、村上氏などが救援を求めた越後の上杉謙信との5回にわたる戦い「川中島の合戦」が起こった。その初戦は、八幡の地で行われたが、合戦の勝利を祈るため、上杉謙信は、更科(更級)八幡宮(現在の武水別神社(八幡地区))に願文を捧げている。願文では、棚田の背後の姨捨山の木の間から月の光が差す光景を仏の登場にたとえ、「田毎満月の影」と表現している。



市指定史跡 屋代城跡

こうした中、在地の屋代氏は武田氏に味方し、所領の継承を図った。山城である屋代城(屋代地区)や荒砥城(上山田地区)が築かれたのはこの頃である。武田氏が織田信長に滅ぼされ、また織田信長が本能寺で自害すると、屋代氏は北信濃を支配した上杉氏に組入り、更級・埴科両郡にまたがる領主となって所領を保持した。この頃、上杉景勝は、稲荷山城(稲荷山地区)を築いた。その後、屋代氏は上杉氏から徳川方に離反してこの地を去り、徳川家の家臣となって近世大名へと成長していった。



市指定史跡 荒砥城跡群

(4) 近世

ア 松代藩と上田藩

慶長5年(1600)の関ヶ原合戦の後、徳川家康が江戸に幕府を開いた。千曲市域のほとんどの地区は真田氏が治める松代藩領となった。一方、稲荷山地区は仙石氏(後に松平氏)が治める上田藩領内の川中島飛領となった。また、埴科郡、小島以南の埴生地区から戸倉地区は、幕府領として治められるというモザイク状の領地支配となった。

イ 街道の成立

千曲市域は北国街道、善光寺道、谷街道(松代道)の3つの街道が通過する交通の要衝であり、これらの街道は参勤交代のほか善光寺や戸隠神社、伊勢神宮への「詣で」の道でもあった。

北国街道は信濃追分宿(軽井沢町)で中山道から分岐し、高田(新潟県上越市)で北陸道に接続する。佐渡の金銀を江戸に運ぶ輸送路としての役割もあって、五街道に次ぐ重要な街道に位置付けられた。

善光寺道は、中山道の洗馬宿(塩尻市)で分かれ、篠ノ井追分宿で北国街道に接続する。谷街道は、矢代宿から松代藩の城下町である松代を通り、越後国十日町に至る。



矢代宿の街なみ

ウ 宿場の形成

宿場は、北国街道に矢代宿、下戸倉宿、上戸倉宿、寂時(あいしゆく)に間の宿、善光寺道には稲荷山宿、桑原(くわはら)に間の宿が設けられた。更科(級)八幡宮の門前宿などは、在郷町や宿場町に発展して、村方とは区別された町方が登場した。宿では、道路に面して間口が狭く、奥に長い地割が形成され、都市的空間が生まれた。

宿ではまた、定期市が開かれた。定期市は、17世紀に九斎市(月に9回行われる定期市)が開かれた。善光寺道での定期市は、江戸時代前半に桑原で成立したが、江戸時代中期に稲荷山でも五日町・八日町ができたことで市が移った。



桑原宿の街なみ

上戸倉宿では、文化2年(1805)と文政5年(1822)に、代官所に対して、「佐渡奉行の継立には下戸倉・福井への助郷」を依頼した記録があり、佐渡金山の江戸への運上金を北国街道で輸送したことがわかる。

エ 千曲川の水害

千曲川の洪水については、近世以降記録が多く残されている。戦国時代から明治8年(1875)までの記録には、天文12年(1543)の洪水により舟山郷(屋代地区の栗佐を含む埴生地区一帯)が流失し、千曲川の河筋が大きく変化したことや、寛保2年(1742)の「戌の満水」と呼ばれる大洪水で、「矢代以南残らず浸水、死者1,220人など」と災害の様子が記録されている。

こうした災害への対応として、国役普請(幕府の補助)や郡役普請(藩の補助)、自普請(村負担)による堤防の修理や田畑の復興が行われた。また、千曲川の洪水により川筋が変わることで、村境争論も発生した。



戌の満水による被害を示した絵図

(上徳間地区の村山家文書)

オ 善光寺地震

弘化4年(1847)旧暦5月8日午後10時頃、信濃から越後にかけて発生した地震は「善光寺地震」と呼ばれ、その規模はマグニチュード7.4、震度7以上という大地震であった。稲荷山宿は、千曲市域では最も大きな被害を受けた。記録によれば、多くの建物が倒壊したうえ、大火が発生した。この火災は3日間燃え続け、町のほとんどが焼失したという。



善光寺地震による火災被害図

(稲荷山宿)

(5) 近現代

ア 明治維新

明治4年(1871)7月に廃藩置県が断行された。松代藩は松代県となり、11月の府県制3府72県の再編により東北信6郡を管轄する長野県に編入された。さらに、明治9年(1876)8月には筑摩県の中南信4郡を合わせて、旧信濃国10郡が「長野県」となった。明治22年(1889)の市制・町村制の施行で、現千曲市域では稲荷山町・屋代町ほか11村となった。次いで、明治24年(1891)施行の郡制により千曲川左岸地域の更級郡と、右岸地域の埴科郡に二分されることになった。

イ 養蚕業の発展

幕末以降、養蚕が盛んとなり、各農家は現金収入を得るため気抜きを設けた屋根を持つ大きな民家を建て、蚕を飼育した。蚕の餌である桑の木は山の斜面から千曲河畔まで、市域のいたるところに植えられた。とりわけ屋代から雨宮一帯は、市域有数の桑園地帯となった。また、力石地区



森地区の風穴

では、蚕種製造もさかんに行われ、森地区や倉科地区では風穴を利用した蚕種の冷蔵保存も行われた。製糸業については、有明社・埴科社などの製糸工場がつくられた。稲荷山地区は、こうした生糸の集積地、また、メリヤスの生産地として栄えた。

養蚕の繁栄は大正9年(1920)に生糸の価格が暴落し、世界恐慌、安価な化学繊維の登場により停滞を迎え、蚕糸業に頼っていた長野県の経済は大きな影響を受けた。

ウ 鉄道の開通

明治21年(1888)、信越線長野―上田間が開通し、屋代地区に屋代駅が開業した。明治26年(1893)には直江津―高崎間が全線開通した。明治24年(1891)には屋代駅と稲荷山を結ぶ道路が完成し、屋代駅周辺に運送・旅館・食堂・商店が立ち並びはじめた。戸倉駅は、明治45年(1912)に戸倉上山田温泉の宿泊客増加に伴い、地域の請願駅として開業した。



篠ノ井線 姨捨駅の開業

篠ノ井線は、明治33年(1900)、塩尻―篠ノ井間が開通した。給水や列車のすれ違いのために姨捨駅が設置された。稲荷山町では、誘致運動が盛り上がりを見せず、また技術上困難なこともあり、稲荷山駅は隣接の塩崎地籍(長野市)に開設された。大正11年(1922)には、千曲川右岸の河東地域に河東鉄道の屋代―須坂間が開業した。

エ 市街地の形成

明治時代の鉄道交通の開通は、地域の宿場町や集積地での商業活動を大きく発展させ、大正・昭和初期には駅前を中核とした商業市街地の景観をつくりだした。大正13年(1924)の商業税納入の市町村等級では、屋代・埴生が篠ノ井・松代と並んで4等級となり、稲荷山は須坂・中野・飯山と同じ3等級で、北信濃での有数の地方商業都市となっていた。大正・昭和時代初期の鉄道貨物発着物は、生果、鮮魚、砂糖、食塩、酒、たばこ、綿布や人造肥料、繭、生糸、苧、材木、石灰などで、発着量の増加に伴って、流通商品も増大した。



昭和初期の屋代駅の周辺

稲荷山や屋代駅前では、地域での需要と供給に応じて消費圏や商業圏が成立し、小売店式の店舗の増加によって商店街が形成された。商業の近代化と金融・電信などの発達によって、地域の景観が大きく変化した。

五加地区や戸倉地区では養蚕・蚕種・製糸業が発達した。信越線の停車場新設など交通の近代化とともに、五加銀行の設立など金融の近代化も進んだ。五加村では『自治』の広報誌が発行され、小作組合による小作料減免の運動(小作争議)が県下でいち早く発展した。戸倉温泉や屋代小学校では農民による社会主義の学習会や講演会が開かれ、信濃同盟会更級支部も結成された。

オ 戸倉上山田温泉の開湯と発展

明治元年(1868)、千曲川左岸の河原に温泉が発見され、明治26年(1893)に戸倉温泉、

明治 36 年(1903)に上山田温泉が開湯した。その後、千曲川右岸に新戸倉温泉が開湯した。これらの温泉を総称して「戸倉上山田温泉」と呼んでいる。当初は、千曲川の氾濫により、くりかえし水害に見舞われたが、大正年間に内務省により堤防が設置されたことで、被害が減少し、温泉街が徐々に発展していった。昭和9年(1934)には陸軍転地療養所の献納による知名度の上昇もあって、温泉保養客が増加した。戸倉上山田温泉の最盛期は昭和 48 年(1973)頃で、宿泊者数が年間 100 万人ほどあり、長野県内では、上諏訪温泉(諏訪市)や浅間温泉(松本市)、湯田中・渋温泉(山ノ内町)などとともに団体旅行で賑わいをみせていた。現在の旅館やホテルの建物はその頃に建替えられたもので、昭和のイメージが残る温泉街となっている。



最盛期の戸倉上山田温泉
(昭和 40 年代)

カ 戦後の町村合併

戦後、社会状況の変化や自治体財政の窮迫から、町村合併が進められた。昭和 28 年(1953)には町村合併促進法が施行され、昭和 29 年(1954)10 月1日に埴生町と杭瀬下村が合併し「埴生町」となった。昭和 30 年(1955)には、屋代町・雨宮縣村・森村が合併し「埴科屋代町」となったが、6月1日に「屋代町」に名称変更を行い、翌年9月 30 日に倉科村を編入した。同じく昭和 30 年(1955)、稲荷山町と桑原村が合併し「稲荷山桑原町」となり、12 月1日、「稲荷山町」に名称変更を行った。戸倉地区では、更級村と戸倉町が、続いて7月1日に五加村と戸倉町が合併し「戸倉町」となった。上山田地区では力石村と上山田町が合併し、「上山田町」が発足した。昭和 31 年(1956)には、新市町村建設促進法が施行され、昭和 34 年6月1日、埴科郡の屋代町と埴生町、更級郡の稲荷山町と八幡村が合併し、両郡名を用いた「更埴市」が誕生した。

キ 千曲市の誕生

平成 11 年(1999)、「市町村の合併の特例に関する法律」に基づき、平成 15 年(2003)9月1日に更埴市・戸倉町・上山田町の1市2町が合併した「千曲市」が発足し、平成の合併としては県下最初の合併となった。令和元年(2019)に新庁舎が完成し、新庁舎での執務を開始した。



合併協定調印式

(6) 歴史上の人物

金刺氏 生没年不詳(奈良～平安時代) 古代氏族。信濃国では郡司層に多く、『日本三大実録』貞観4年(862)に「信濃国埴科郡大領外七位上 金刺舎人正長」の名が認められる。屋代遺跡群からは「金刺」と記された木簡が出土し、金刺氏が埴科郡大領であったこととの関連が指摘される。

建部大垣^{たてべのおおがき} 生没年不詳(奈良時代) 善行者。『続日本紀』^{しよくにほんぎ}神護景雲2年(768)親孝行として律令政府から表彰され、税を終身免除された。古い記録に残る更級郡の人だが、当地を指しているかは不明。



金刺氏の墨書が残る
屋代遺跡群出土木簡
長野県立歴史館所蔵



続日本紀
東京国立博物館所蔵



権少僧都成俊の碑

権少僧都成俊^{ごんのしょうそう ず じょうしゆん} 生没年不詳(南北朝時代) 僧侶・万葉集研究家。更級郷に閑居して一人『万葉集』の研究を行った三井寺^{さんいじ}(滋賀県)の僧侶。仙覚校訂の『万葉集』全20巻を後世に伝えたこと、日本で初めて歴史的仮名遣いによって『万葉集』の読みを付けた。

屋代政国^{やしろまさくに} 永正17年(1520)～永禄4年(1561) 武将。天文22年(1553)屋代城から荒砥城に拠点を移して武田氏の武将として活躍し、永禄4年(1561)ないしは天正10年(1582)に川中島の合戦で討死したとされる。嫡子正長も天正3年(1575)長篠の合戦で討死した。

松田織部祐^{まつだおりべのすけ} 生没年不詳(戦国時代) 武将・神官。元は仁科姓、実名は盛直。天正12年(1584)に上杉景勝から、松田名跡を継承し、更科(更級)八幡宮別当となり、慶長3年(1598)松田縫殿助に神主職を預け置き、上杉景勝の会津移封に同道する。以降、武水別神社神主職が継承される。

中村習輔^{なかむらしゆうすけ} 享保17年(1732)～文化13年(1816) 心学者。柏王村に生まれる。明和8年(1771)40歳のときに心学者の手島堵庵^{てしま とあん}に入門。53歳の頃、柏王に恭安舎を設立、信州における心学の普及に生涯をかけた。信濃のみならず周辺諸国にも数多くの門人をもった。

宮本虎杖^{みやもと こじょう} 寛保元年(1741)～明治7年(1874) 俳句宗匠。下戸倉宿に生まれる。明和5年(1768)28歳のときに、来信した俳諧の加舎白雄^{かやしらお}に師事。天明4年(1784)秋には判者(宗匠)の許しを受け、「虎杖庵」を称している。北東信に門人400人あまりを擁した。

小林五藤^{こばやし ごとう} 寛政2年(1790)～嘉永5年(1852) 宮大工・宮彫師。稲荷山の商家に生まれる。後藤流の宮彫師である。京都御所の造営にも奉仕し、京都の吉田家より風折烏帽子の着用を



屋代氏所用の陣羽織
戦国時代



上杉景勝から松田氏宛て文書

許された。治田神社(稲荷山)の高市社(治田町・上八日町)、晩年には典厩寺(長野市)の閻魔大王像を手掛けた。



中村習輔の墓



宮本虎杖



上八日町の高市社

柿崎多膳 寛政4年(1792)～元治元年(1864) 医師・郷土史家。天保7年(1836)に矢代村に医師として移り住み、医業のかたわら、読み書き・謡曲等の教授を行った。安政6年(1859)に『屋代記』を著し、寺社をはじめ、天変地変の災害記録、周辺村々の歴史事象を克明に記している。

大谷幸蔵 文政8年(1825)～明治20年(1887) 実業家。羽尾村の名主に生まれる。蚕種貿易を行い、大きな利益を上げた。また、松代藩に座繰製糸を奨励し、生糸の販売も行った。イタリヤなどに数回渡航し、世界的商人として活躍した。松代騒動で自宅が焼き討ちに遭った。



大谷幸蔵

若林才兵衛 文政11年(1828)～明治33年(1900) 温泉発見者。上山田村の農家に生まれる。明治元年(1868)千曲川で魚獲りの際に、河原に温泉湧出を発見。上山田温泉の始まりとなる。

松田穂並 天保6年(1835)～明治44(1911) 神官・社会事業功労者 武水別神社の神主を代々勤める松田家に生まれる。神職である傍ら教育の必要性を提唱し、明治4年(1871)私財を投じて八幡書院を創立した。教育をはじめ公共の事業等にも多大な貢献をした。

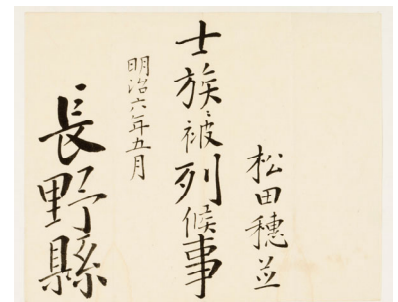


上山田温泉かめの湯

明治36年(1903)開業

小出八郎右衛門 天保11年(1840)～明治43年(1910) 実業家。稲荷山の材木商の家に生まれる。明治13年(1880)和田郡平らとともに稲荷山銀行を創立した。商都稲荷山の発展に貢献した。

小平甚右衛門 天保14年(1843)～明治4年(1871) 義人。上山田村の農家に生まれる。松代藩による藩札相場の是正に端を発し、明治3年(1870)11月25日、上山田村の農民たちが行った一揆「午札騒動」(松代騒動)が発生。甚右衛門が、首謀者と



松田穂並が士族に列せられた通知 明治6年(1873)

して責任を一身に負い、斬罪となった。



稲荷山銀行表札



小平甚右衛門の碑



和田郡平

和田郡平 天保14年(1843)～明治44年(1911) 実業家。八幡村中原の酒店に生まれる。明治初めに、アメリカから輸入されたリンゴ苗木を仕入れ、現在の県下のリンゴ栽培の礎を切り拓いた。明治14年(1881)には、小出八郎右衛門らと稲荷山銀行を設立した。

塚田小右衛門(雅文) 嘉永元年(1848)～大正11年(1922) 政治家。羽尾村の名主の家に生まれる。更級村初代村長・県議会議員等を歴任。冠着山が姨捨山であるとの強い思いから、新聞紙上に考証を発表し、私財を投じてその啓蒙に努めた。

坂井量之助 安政6年(1859)～明治38年(1905) 実業家・政治家。下戸倉宿で、酒造業を営む坂井家の次男として生まれた。戸倉村長なども歴任。明治23年(1890)から温泉開発に乗り出し、莫大な費用と労力を費やし、明治26年(1893)、戸倉温泉開湯に至った。

新村忠雄 明治20年(1887)～明治44年(1911) 社会主義者。屋代町の農家に生まれる。幸徳秋水ら社会主義に傾倒し、明治43年(1910)に起こった大逆事件により死罪となった12名のうちの一人。当時、日露戦争による国民生活の悲惨な状況から、社会主義への関心が高まっていた。

中島惣左衛門 明治17年(1884)～昭和36年(1961) 教育者・郷土史研究家。新山村の農家に生まれる。智識寺大御堂の保護活動に尽力し、郷土史研究団体「冠山文化研究会」の創設にも携わった。長年にわたる研究成果を元に『上山田町史』の編纂を手掛けた。

近藤音三郎 明治24年(1891)～昭和49年(1974) 自治功労者。屋代町出身。屋代町助役、教育長等を歴任。昭和34年(1959)、更埴市初代教育長に就任。城ノ内遺跡、更埴条里遺構調査の推進、「森将軍塚を守る会」会長として文化財保護に尽力した。



冠着山(姨捨山)



坂井量之助



新村忠雄



中島惣左衛門



近藤音三郎



ミヤリサン

みやいりちかじ
宮入近治 明治29年(1896)～昭和38年(1963)実業家・医学博士。五加村出身。昭和15年(1940)腸内菌を研究中に「宮入菌」を発見。整腸剤「ミヤリサン」の製薬免許を受け、戸倉町に宮入菌剤研究所(現ミヤリサン製薬)を創立した。事業の傍ら、戸倉町育英会の創設など社会事業にも貢献した。

わかばやしまさはる
若林正春 明治25年(1892)～昭和32年(1957)実業家・上山田村長。上山田ホテル初代社長。昭和20年(1945)、上山田村長在任中に東京都立光明国民学校(昭和7年(1932)設立の日本初の肢体不自由児の学校)校長の要請を受け、児童の疎開を受け入れた。

くらいしただお
倉石忠雄 明治33年(1900)～昭和61年(1986)政治家。稲荷山町の商家に生まれる。大正10年(1921)政治家を志し上京。法政大学を卒業後、昭和22年(1947)衆議院議員に当選、以来連続14期当選。労働相2回、農林相4回、法相等を務め、政界の中枢で活躍した。

にしむらすすむ
西村進 明治39年(1906)～昭和26年(1951)育種家。埴生村に生まれる。千葉高等園芸学校を卒業後、帰郷して花卉栽培を開始。高砂百合を改良した「西村鉄砲百合」を生み出す。更埴地方の花卉栽培の基礎を築き、地域の発展に大きく貢献した。

こんどうひでぞう
近藤日出造 明治41年(1908)～昭和46年(1971)漫画家。稲荷山に生まれる。本名は秀蔵。昭和8年(1933)読売新聞社に入社し、政治風刺漫画を中心に描いた。昭和39年(1964)日本漫画家協会を設立し、初代理事長になる。「ふる里漫画館」には日出造の作品が収蔵・展示されている。



戸倉上山田温泉



倉石忠雄の生家と伝わる建物



西村進と鉄砲百合

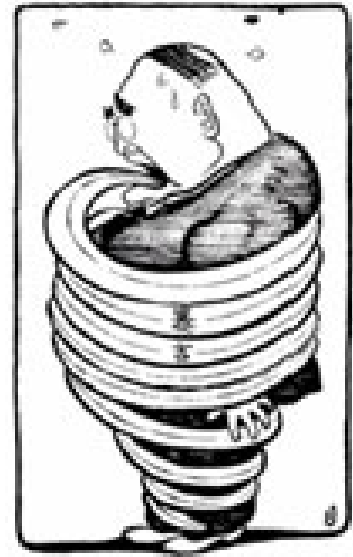
^{こ だま こう た}
児玉幸多 明治42年(1909)～平成19年(2007)歴史学者。
^{い な り や ま は る た}
稲荷山治田神社の神主家に生まれる。東京帝国大学文学部国
史学科を卒業。近世の農村や交通史を研究し、学習院大学学長、
江戸東京博物館初代館長などを歴任。『更埴市史』監修。今上
天皇の大学時代の指導教官。

^{よね や ま か ず ま さ}
米山一政 明治44年(1911)～平成元年(1989) 歴史研究者。
^{ぐ ら し な む ら}
倉科村に生まれる。北信濃を中心に古文書から考古学まで研究
対象は幅広い分野に及んだ。『信濃史料』、『真田家文書』等の
^{へん さん}
編纂や自治体史誌、歴史事典類の編纂に携わる。長野県文化財
保護審議会会長などを務めた。

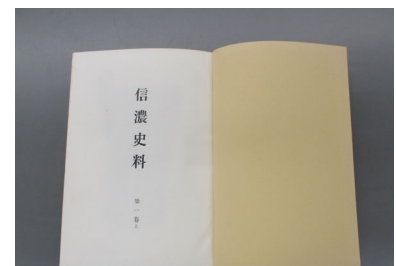
^{な か じ ょ う た か の り}
中條高德 昭和2年(1927)～平成26年(2014) 実業家。森
村の農家に生まれる。戦後アサヒビールに入社。昭和57年
(1982)営業本部長として「アサヒスーパードライ」作戦を指揮
し、業界トップへ躍進させた。社長・会長を歴任。市内小中学校
図書館には「中條文庫」が設けられた。

^{も り し ま み の る}
森嶋 稔 昭和6年(1931)～平成8年(1996) 教育者・考古
学者。戸倉村に生まれる。小学校教諭のかたわら「千曲川水系
古代文化研究所」を主宰し、遺跡の調査や県・市町村の文化財
保護の指導、助言を行う。長野県考古学会設立発起人に名を連
ね、事務局長・会長を歴任。

^{み ず の ま さ ゆ き}
水野正幸 昭和15年(1940)～平成21年(2009) 実業家。
戸倉町に生まれる。ホクト株式会社の創業者。当初は梱包資材
を販売していたが、きのこ栽培用資材の製造・販売を機に、新品
種の開発から製造、販売を手掛ける。きのこ栽培の総合企業に
成長させた。水野美術館(長野市)を創設。



近藤日出造の風刺画



米山一政が編纂に携わった
信濃史料



中條高德



児玉幸多



森嶋稔

4. 文化財等の分布状況

(1) 千曲市内の指定等文化財

千曲市内には、国指定等文化財が46件、長野県指定文化財19件、千曲市指定文化財86件、総計151件(令和7年4月1日現在)の文化財が存在する。

その分布は、市の中央部を北流する千曲川により二分された、左岸の川西地区に多くの文化財が存在しているのが本市の特徴である。

千曲市内指定等文化財件数

(令和7年(2025)4月1日現在)

種類		国		長野県	千曲市
		指定・選定	登録	指定	指定
有形文化財	建造物	2	32	1	8
	彫刻	2		5	15
	工芸品			1	2
	古文書	1		2	8
	考古資料	2		5	8
	歴史資料			2	5
無形文化財	芸能				1
民俗文化財	無形の民俗文化財	1			3
記念物	遺跡	1		2	15
	名勝地	1			4
	動物、植物、地質鉱物	1		1	17
文化的景観		1			
伝統的建造物群		1			
合 計		13	32	19	86

* 記録選択

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	1
-----------------------	---

(2) 国指定等文化財

重要文化財

建造物では、室町時代末期の建造と伝わり、市内最古の建造物である上山田地区の「智識寺大御堂」と、江戸時代の大隅流宮大工柴宮長左衛門作である戸倉地区の「水上布奈山神社本殿」がある。

彫刻では、平安時代末期の作と伝わり、像高3mを測る智識寺の「木造十一面観音立像」と、鎌倉時代の作風にならった江戸時代の秀作とされる稲荷山地区 長雲寺の「木造愛染明王坐像」がある。

なお、千曲市に所在する長野県立歴史館には、信濃町から出土した「長野県日向林B遺跡出土品」(旧石器時代)や、塩尻市から出土した「長野県吉田川西遺跡土壌出土品」(平安時代)、「鳥羽院庁下文」(中世)等が所蔵されている。



重要文化財 智識寺大御堂

第1章 千曲市の歴史的風致形成の背景

国指定等文化財

種 別	種 類	名 称	所在地	指定等年月日
重要文化財	建造物	水上布奈山神社本殿	戸倉字鎮守1990（水上布奈山神社）	昭和63.5.11
		智識寺大御堂	上山田字釜屋1197（智識寺）	明治40.8.28
	彫 刻	木造愛染明王坐像	稲荷山字大牧2239（長雲寺）	明治39.4.14
		木造十一面観音立像	上山田字釜屋1197（智識寺）	昭和12.8.25
	古文書	鳥羽院庁下文	屋代260-6（長野県立歴史館）	平成10.6.30
	考古資料	長野県吉田川西遺跡土壌出土品	屋代260-6（長野県立歴史館）	平成2.6.29
長野県日向林B遺跡出土品		屋代260-6（長野県立歴史館）	平成23.6.27	
重要無形民俗文化財		雨宮の神事芸能	雨宮（雨宮坐日吉神社）	昭和56.1.21
史 跡		埴科古墳群 森將軍塚古墳	森字大穴山ほか	昭和46.3.16
		埴科古墳群 有明山將軍塚古墳	屋代字一重山ほか	平成19.2.6
		埴科古墳群 倉科將軍塚古墳	倉科字北山ほか	平成19.2.6
		埴科古墳群 土口將軍塚古墳	土口字北山ほか	平成19.2.6
名 勝		姨捨（田毎の月）	八幡字更級川3982-2ほか	平成11.5.10
特別天然記念物		カモシカ	千曲市内	昭和30.2.15
重要文化的景観		姨捨の棚田	八幡	平成22.2.22
重要伝統的建造物群保存地区		千曲市稲荷山伝統的建造物群保存地区	稲荷山	平成26.12.10
登録有形文化財	建造物	長野銘醸事務所	八幡字中原272-5他	平成26.12.19
		長野銘醸酒蔵	八幡字中原272-5	平成26.12.19
		長野銘醸貯蔵蔵	八幡字中原272-5	平成26.12.19
		長野銘醸南蔵	八幡字中原272-1他	平成26.12.19
		長野銘醸米蔵	八幡字中原272-5他	平成26.12.19
		長野銘醸粕蔵	八幡字中原272-1他	平成26.12.19
		長野銘醸東納屋	八幡字中原274他	平成26.12.19
		長野銘醸西納屋	八幡字中原272-1他	平成26.12.19
		長野銘醸東土蔵	八幡字中原272-1	平成26.12.19
		長野銘醸西土蔵	八幡字中原272-1	平成26.12.19
		長野銘醸文庫蔵	八幡字中原272-1	平成26.12.19
		長野銘醸長屋門	八幡字中原272-1	平成26.12.19
		坂井銘醸主屋	戸倉字中町1855-1	平成15.1.31
		坂井銘醸文庫蔵	戸倉字中町1855-1	平成15.1.31
		坂井銘醸宝暦蔵	戸倉字中町1855-1	平成15.1.31
		坂井銘醸寛政蔵	戸倉字中町1855-1	平成15.1.31
		坂井銘醸慶応蔵	戸倉字中町1855-1	平成15.1.31
		坂井銘醸明治蔵	戸倉字中町1855-1	平成15.1.31
		坂井銘醸大正蔵	戸倉字中町1855-1	平成15.1.31
		坂井銘醸昭和蔵	戸倉字中町1855-1	平成15.1.31
		寿高原食品四階倉庫	戸倉字大明神1465-1	平成29.6.28
		瀧澤家住宅主屋	磯部字石原122	平成29.6.28
		瀧澤家住宅土蔵	磯部字石原122	平成29.6.28
		瀧澤家住宅長屋門	磯部字石原122	平成29.6.28
		笹屋ホテル別荘	上山田温泉1-1-1	平成15.1.31
		龍洞院架道橋	桑原字小坂2138-10	平成18.10.18
		滝沢川橋梁	稲荷山字元町4066-2	平成18.10.18
		荻沢川第1号石堰堤	桑原字佐野山	平成21.1.8
		荻沢川第2号石堰堤	桑原字宝殿	平成21.1.8
		荻沢川第3号石堰堤	桑原字宝殿	平成21.1.8
		荻沢川第7号石堰堤	桑原字宝殿	平成21.1.8
			日本聖公会中部教区稲荷山諸聖徒教会	稲荷山字伊勢宮198-2
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財		武水別神社の頭人行事	八幡	昭和61.12.17

県指定等文化財

種 別	種 類	名 称	所在地	指定年月日
県 宝	建造物	武水別神社摂社高良社本殿	八幡字社地3012-2（武水別神社）	昭和50.7.21
	彫 刻	木造千手観音坐像	森字大峯2650-1（観龍寺）	昭和37.7.12
		木造十一面観音菩薩立像	森字大峯2650-1（観龍寺）	平成5.2.18
		木造聖観音菩薩立像	森字大峯2650-1（観龍寺）	平成5.2.18
		木造聖観音坐像	内川字内川264（長泉寺）	昭和50.7.21
		木造千手観音立像	戸倉	昭和52.3.31
	工芸品	銅製釣燈籠	八幡字社地3012-2（武水別神社）	昭和45.4.13
		大井法華堂文書	屋代260-6（長野県立歴史館）	令和6.3.28
	歴史資料	大文字の旗	屋代260-6（長野県立歴史館）	平成9.8.14
		長野県行政文書	屋代260-6（長野県立歴史館）	平成20.1.20
	考古資料	動物裝飾付釣手土器	屋代260-6（長野県立歴史館）	平成11.3.18
		屋代遺跡群出土土簡	屋代260-6（長野県立歴史館）	平成16.3.29
		下茂内遺跡出土品	屋代260-6（長野県立歴史館）	平成18.4.20
		社宮司遺跡出土木造六角宝幢	屋代260-6（長野県立歴史館）	平成23.3.28
		細形銅剣	羽尾247-1（さらしなの里歴史資料館）	昭和49.11.14
	古文書	清水家文書	屋代260-6（長野県立歴史館）	平成20.4.21
史 跡		村上氏城館跡	磯部字城下1734ほか	昭和49.1.17
		武水別神社松田家館跡	八幡字森下3033-1ほか	平成18.4.20
天然記念物		武水別神社社叢	八幡字社地3012-2（武水別神社）	昭和40.2.25

市指定文化財

種 別	種 類	名 称	所在地	指定年月日
有形文化財	建造物	屋代小学校旧本館	屋代字新屋2111	昭和48.3.15
		武水別神社神官 松田邸	八幡字森下3033-1 ほか	平成15.2.28
		波間科神社本殿	上山田字城山3503-イ（波間科神社）	昭和62.1.27
		智識寺仁王門	上山田字釜屋1197-2（智識寺）	昭和62.1.27
		飯盛女の献燈	戸倉字鎮守1990（水上布奈山神社）	昭和63.3.28
		宝篋印塔	若宮字村東2（佐良志奈神社）	昭和63.3.28
		力石さん	力石字西沖301（清水神社）	昭和62.1.27
		新山宿の石神様	新山字宿666-2	昭和62.1.27
	彫 刻	木造観音二十八部衆	森字大峯2650-1（観龍寺）	昭和48.3.15
		木造不動明王立像	森字大峯2650-1（観龍寺）	平成4.12.24
		木造毘沙門天立像	森字大峯2650-1（観龍寺）	平成4.12.24
		伎楽面	八幡字社地3012-2（武水別神社）	昭和53.3.24
		獅子面	八幡字社地3012-2（武水別神社）	昭和53.3.24
		木造薬師如来坐像	戸倉字矢田486（柏岩寺）	昭和63.3.28
		石造子安地藏菩薩立像	上山田字城野腰2698-1の先	昭和62.1.27
		木造地藏菩薩立像	上山田字釜屋1197（智識寺）	昭和62.1.27
		木造聖観音菩薩立像	上山田字釜屋1197（智識寺）	昭和62.1.27
		木造金剛力士立像	上山田字釜屋1197-2（智識寺）	昭和62.1.27
		木造釈迦如来坐像	上山田字釜屋1197（智識寺）	昭和62.1.27
		木造阿弥陀如来坐像	上山田1764	昭和62.1.27
		木造阿弥陀如来立像	新山	昭和62.1.27
		鉄造吉祥天立像	上山田字城野腰2443（普携寺）	昭和62.1.27
		木造虚空蔵菩薩坐像	力石字東沖707（如法寺）	昭和62.1.27
	工芸品	金銅製六角釣燈籠	八幡字社地3012-2（武水別神社）	昭和48.3.15
		千石舟模型	新山字漆原入1290-1（宇留司原神社）	昭和62.1.27
	古文書	旧上山田町所蔵古文書	桜堂268-1（歴史文化財センター）	昭和62.1.27
		旧上山田町所有古文書	桜堂268-1（歴史文化財センター）	昭和62.1.27
		庄内神社古文書	新山字寄合137-1（庄内神社）	昭和62.1.27
		市川家古文書	新山	昭和62.1.27
		宮下家古文書	新山	昭和62.1.27
		古畑家古文書	新山	昭和62.1.27
		宮本家古文書	上山田	昭和62.1.27
		滝沢家古文書	新山	昭和62.1.27

第1章 千曲市の歴史的風致形成の背景

種 別	種 類	名 称	所在地	指定年月日
有形文化財	考古資料	五輪堂遺跡第2号火葬墓出土遺物	桜堂268-1（歴史文化財センター）	昭和61.1.27
		御屋敷土器一括	桜堂268-1（歴史文化財センター）	昭和62.1.27
		屋代遺跡群水田遺構出土農耕祭祀遺物群	桜堂268-1（歴史文化財センター）	平成29.3.30
		経筒	羽尾247-1（さらしなの里歴史資料館）	昭和63.3.28
		人面付小形深鉢土器	羽尾247-1（さらしなの里歴史資料館）	平成10.3.26
		陣鐘及び湯釜	上山田	昭和62.1.27
		禾天目茶碗	上山田温泉	昭和62.1.27
		古常滑大甕	上山田3509-1（城山史跡公園）	昭和62.1.27
	歴史資料	佛光円明禅師袈裟及び念珠	森字寺前1564（禅透院）	昭和57.3.10
		佐久間象山墨跡及び書簡	桜堂268-1（歴史文化財センター）	昭和61.1.27
		佐久間象山書五反幟	桜堂268-1（歴史文化財センター）	昭和62.1.27
		「屋代家文書」ほか一括	桜堂268-1（歴史文化財センター）	平成19.3.30
		上山田温泉第1号湯標石	上山田温泉4-1-8	昭和62.1.27
無形民俗文化財		上山田太々御神楽	上山田	昭和62.1.27
		水上布奈山神社の御柱祭	戸倉	平成12.11.30
		稲荷山祇園祭	稲荷山	平成24.6.6
		大池の百八灯	八幡字大池	平成27.4.1
史 跡		屋代城跡	屋代字一重山ほか	昭和48.10.24
		小坂城跡	桑原字城ほか	平成27.4.1
		荒砥城跡群	上山田字城山3509-1 ほか	昭和62.1.27
		入山城跡	新山字姨塚1420ほか	昭和62.1.27
		塚穴古墳	稲荷山字篠山2433	昭和50.12.20
		北山古墳	生萱字北山1023	昭和50.12.20
		白塚古墳	森2152	平成14.1.25
		中山古墳	戸倉字日影平1063-15	昭和63.3.28
		金比羅山古墳	上山田字弥勒寺1875・1876	昭和62.1.27
		四ツ塚古墳群	上山田字弥勒寺1904	昭和62.1.27
		堂上古墳	上山田字弥勒寺1991-2ほか	昭和62.1.27
		観音林古墳	上山田字釜屋1353	昭和62.1.27
		釜屋1号墳	上山田字釜屋1197-13	昭和62.1.27
		石組み井戸	新山字寄合161	昭和62.1.27
		四十八曲峠古道	上山田字大窪3757-479	昭和62.1.27
名 勝		見性寺境内一円	新山字宿624ほか（見性寺）	昭和62.1.27
		山崎氏庭園	新山1132	昭和62.1.27
		曾根堂の不動滝一円	上山田字大窪	昭和62.1.27
		樽岩	上山田字大窪	昭和62.1.27
天然記念物		中原のりんご国光原木	八幡字古屋敷461-4	平成6.3.31
		姨捨長楽寺の桂ノ木	八幡字姨捨4984-1（長楽寺）	平成6.3.31
		お稲荷様のケヤキ	森字上平2042	平成6.3.31
		天皇子神社のケヤキ	寂蒔字八幡新田1062（天皇子神社）	平成24.6.6
		柏王の大カシワ	戸倉字宮坂878	平成10.3.26
		明徳寺の大スギ	羽尾字本田1309-11（明徳寺）	平成10.3.26
		天狗のマツ	戸倉字日影平1130-2	平成10.3.26
		セツブンソウ群生地	戸倉字日影平1124ほか	平成18.9.28
			倉科字杉山2039ほか	
		水上布奈山神社のクヌギ	戸倉字鎮守1990-3（水上布奈山神社）	平成23.4.7
		智識寺寺叢	上山田字釜屋1197（智識寺）	昭和62.1.27
		三本木神社の榎	上山田字三本木581-1（三本木神社）	昭和62.1.27
		清水の榎	新山字清水456-3	昭和62.1.27
		天坂の柊	新山字天坂81-1	昭和62.1.27
		漆原の柏	新山字漆原1296	昭和62.1.27
		漆原のくまの水木	新山字漆原1186	昭和62.1.27
		見性寺のタラヨウ	新山字宿625（見性寺）	昭和62.1.27
		ハコネサシショウウオ棲息地	新山	昭和62.1.27

重要無形民俗文化財

「雨宮の神事芸能」は、「雨宮の御神事」とも呼ばれる。雨宮坐日吉神社の祈年祭に行われる豊作祈願の神事芸能である。現在は3年に一度、4月29日に雨宮地区で執り行われる。沢山川に架かる斎場橋から降ろされた4頭の獅子が逆さ吊りで水面をたたき「橋懸り」は、祭りの最大の見せ場である。

史 跡

「埴科古墳群 森將軍塚古墳」は、昭和40年代に発掘調査が行われ、長大な竪穴式石室を設けた全長約100mの前方後円墳であることが明らかになった。その後埋め立て用土砂採取により崩壊の危機に瀕していたが、市民・研究者・行政が一体となった保存運動によって守られ、昭和46年(1971)、史跡に指定された。昭和56年(1981)から平成3年(1991)にかけて全面的な発掘調査が行われ、古墳築造当時の姿に復原整備された。平成19年(2007)には、有明山將軍塚古墳、倉科將軍塚古墳、土口將軍塚古墳の3基とともに「埴科古墳群」として広域指定を受けた。

名 勝

名勝「姨捨(田毎の月)」は、農耕地が国の文化財に指定された最初の事例である。姨捨の地は、平安時代から文学・絵画などの題材に採用され、文学的・歴史的な景観を形成している。姨石や松尾芭蕉の句碑などが残る長楽寺と、そこから望む四十八枚田をはじめとする棚田、約6haが指定範囲となり、保存が図られている。

重要文化的景観

棚田と更級川、水源地の大池を合わせた64.3haの範囲が平成22年(2010)、重要文化的景観「姨捨の棚田」に選定された。選定範囲の内側には名勝指定地も含まれている。長野盆地を一望する標高460～560mほどの傾斜面に面積約40ha、約1,500枚の棚田が耕作されている。

重要伝統的建造物群保存地区

稻荷山地区は江戸時代に宿場町として機能し、幕末以降は物資の集積地として発展した商家町である。江戸時代以来の地割を良く残すとともに、江戸時代末期から戦前にかけて建てられた特色ある伝統的建造物が立ち並ぶ。



重要無形民俗文化財
雨宮の神事芸能



史跡 埴科古墳群 森將軍塚古墳



名勝 姨捨(田毎の月) 長楽寺



重要文化的景観 姨捨の棚田

登録有形文化財

建造物では、「笹屋ホテル別荘」、「坂井銘醸主屋」、「龍洞院架道橋」、「荏沢川石堰堤」などがある。

「笹屋ホテル別荘」は、昭和7年(1932)、戸倉上山田温泉の旅館笹屋ホテルの敷地内に建てられた建物である。建築家遠藤新が設計した木造和風旅館建築で、現在も客室として使われている。

「坂井銘醸主屋」他7棟は、下戸倉宿(戸倉地区)にある。茅葺屋根、角屋上の屋敷、式台等に当地における江戸時代中期の名主家の権威や格式を良く残している。

「龍洞院架道橋」は、JR篠ノ井線稲荷山駅と姨捨駅間の軌道敷下に架橋された煉瓦造のアーチ橋である。曹洞宗の古刹である龍洞院の参道を、篠ノ井線が横断するため、明治33年以前に築堤下に築造したもので、現在、参道景観の一部を構成している。

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

八幡・更級・五加地区では「武水別神社の頭人行事」が毎年欠かすことなく、400年間継続されている。「大頭祭」、「おねり」とも呼ばれる新嘗祭の行事である。



稲荷山伝統的建造物群保存地区



記録作成等の措置を講ずべき

無形の民俗文化財

武水別神社の頭人行事

(3) 県指定等文化財

建造物

「武水別神社摂社高良社本殿」は、武水別神社境内において最も古い建物で、室町時代末期に建てられたものである。

彫刻

観龍寺(森地区)には平安時代作の「木造千手観音坐像」、「木造十一面観音立像」、「木造聖観音菩薩立像」(平成12年(2000)盗難)である。長泉寺の「木造聖観音坐像」は、永仁6年(1298)の作で、明治時代の神仏分離により、戸隠神社奥院観音堂より外に出て、明治20年(1887)に長泉寺の所有となったものである。

考古資料

更級地区若宮の箭塚遺跡から出土したと伝わる弥生時代の「細形銅剣」がある。長野県立歴史館所蔵資料では、屋代遺跡群から出土した「屋代遺跡群出土木簡」、八幡地区の社宮司遺跡から出土した「社宮司遺跡出土木造六角宝幢」がある。千曲市外の資料としては、佐久市出土の「下茂内遺跡出土品」、富士見町弘沢遺跡出土の縄文時代の



県宝 武水別神社摂社

高良社本殿



県天然記念物 武水別神社社叢

土器「動物装飾付釣手土器」がある。

古文書・歴史資料

長野県立歴史館所蔵の千曲市外の資料に室町時代の「絹本墨書 大文字の旗」、近世の「清水家文書」、近代の行政資料である「長野県行政文書」がある。

史 跡

「村上氏城館跡」、「武水別神社神主松田家館跡」がある。「武水別神社神主松田家館跡」は神社境内に近接する。方形地割をもち、周囲に残された土塁は戦国時代の居館の姿を伝える。

天然記念物

「武水別神社社叢」がある。武水別神社社叢は、ケヤキの巨木を中心に約 25 種、400 本の木が茂り、鎮守の森としての境内空間を構成している。



県宝 木造聖観音座像

（４）市指定文化財

有形文化財

屋代地区の「屋代小学校旧本館」は、明治期の学校建築の一つである。明治 21 年(1888)の建築で、西洋人が建てた建築を参考に大工が見よう見まねで建設した「擬洋風建築」である。「屋代家文書ほか一括」は、戦国時代の在地豪族屋代氏が、武田信玄・上杉謙信・徳川家康と主君を替えて生きのびた様子を物語る古文書である。

考古資料

「屋代遺跡群水田遺構出土農耕祭祀遺物群」、「五輪堂遺跡第2号火葬墓出土遺物」(屋代地区)や、戸倉地区の経ヶ峰経塚から出土した「経筒」、上山田地区の御屋敷遺跡出土の「御屋敷土器一括」がある。

無形民俗文化財

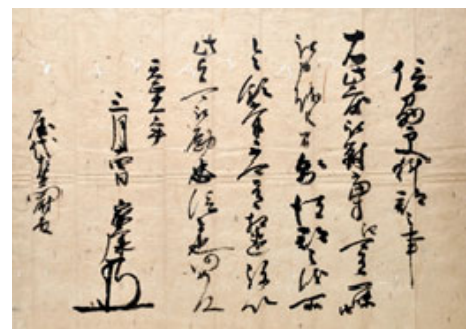
戸倉地区の「水上布奈山神社の御柱祭」、稲荷山地区の「稲荷山祇園祭」、八幡地区の「大池の百八灯」などがある。各地区等で保存会を作り、地域の伝統行事の継承に努めている。

史 跡

屋代地区の「屋代城跡」、上山田地区の「荒砥城跡群」や新山地区の「入山城跡」は、屋代氏や山田氏が活躍した山城である。



市指定有形文化財
屋代小学校旧本館



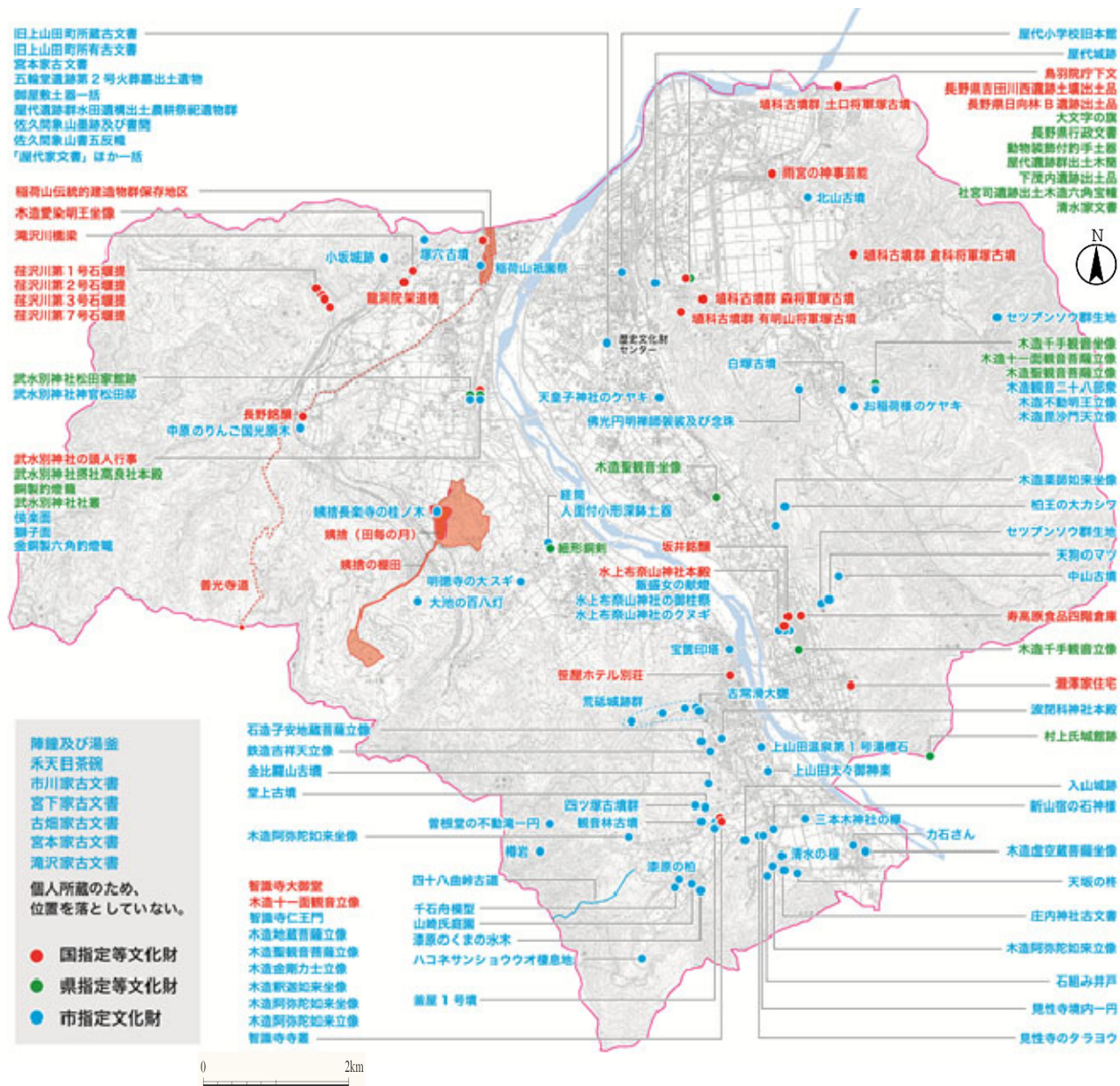
市指定有形文化財
屋代家文書ほか一括

天然記念物

市花である「セツブンソウ」は、戸倉地区と倉科地区の2か所に群生地があり、「セツブンソウ群生地」として指定している。八幡中原地区の「^{なかほら}中原のリンゴ^{こっこうげんぼく}国光原木」は、明治初めにリンゴの苗木が輸入され、和田郡平が増殖した1本で、県下最古のリンゴの木と伝わる。



市指定天然記念物
中原のリンゴ国光原木



(5) 未指定の文化財

ア 概要

これまでの調査や文献により把握された千曲市の未指定文化財の件数は、令和7年(2025)4月現在で145,533点を数える。未指定文化財の点数は、調査によって報告された調査カード点数の合計と、自治体誌等に図面や写真等で掲載された資料を抽出した点数の合計を示すものである。

種類・分類からみた特徴としては、有形文化財が多く残り、歴史的建造物については神社仏閣、伝統的建造物群と養蚕民家等を合わせれば、546点にのぼる。古文書のうち、現段階で所在を把握しているものは、自治体誌等に掲載されているものを中心に55,625点を数える。無形民俗文化財には、神楽をはじめ地域の祭礼や郷土食などがあり、350点を数える。また、千曲川に由来する無形民俗文化財も含まれる。

記念物のうち、とくに蚕種業がさかんであった地区では関連する文化財が多く残されている。樹木については巨木や希少木がおおむね把握されており300点を数える。これらの樹木は神社仏閣に多い。このほか、地域の生業と地形、風土が組み合わされた文化的景観を構成している地域がある。

地域別にみた特徴では、八幡・桑原・稲荷山・力石の各地区に歴史的建造物が残る。いずれも市街地化が進まず、建物が除却されなかったため、古くからの街道や集落の景観が残されている地域である。市内の各地域に所在しているものとして、彫刻(石造物)や民俗文化財が挙げられる。

未指定文化財一覧

更埴地区		戸倉地区		上山田地区		総 計
有形文化財	71,399	有形文化財	54,713	有形文化財	11,006	137,118
建 造 物	387	建 造 物	95	建 造 物	64	546
絵 画	450	絵 画	20	絵 画	5	475
彫刻(石造物)	1,562	彫刻(石造物)	255	彫刻(石造物)	344	2,161
彫刻(その他)	279	彫刻(その他)	6	彫刻(その他)	7	292
工 芸	604	工 芸	2	工 芸	1	607
書跡典籍	4,586	書跡典籍	41	書跡典籍	909	5,536
古 文 書	32,803	古 文 書	15,792	古 文 書	7,030	55,625
文 書	21,560	文 書	1,843	文 書	911	24,314
考古資料	331	考古資料	156	考古資料	208	695
歴史資料	8,837	歴史資料	36,503	歴史資料	1,527	46,867
民俗文化財	7,004	民俗文化財	750	民俗文化財	285	8,039
有 形	6,804	有 形	649	有 形	236	7,689
無 形	200	無 形	101	無 形	49	350
記念物	259	記念物	63	記念物	39	361
遺 跡	17	遺 跡	21	遺 跡	7	45
名 勝 地	12	名 勝 地	3	名 勝 地	0	15
植 物	230	植 物	38	植 物	32	300
地質鉱物	0	地質鉱物	1	地質鉱物	0	1
文化的景観	3	文化的景観	3	文化的景観	3	9
伝統的建造物群	3	伝統的建造物群	2	伝統的建造物群	1	6
総点数	78,668	総点数	55,531	総点数	11,334	145,533

イ 特徴

有形文化財

八幡地区の武水別神社本殿は、嘉永3年(1850)に諏訪の大工立川和四郎富昌によって建てられた「立川流」の大規模な建物である。長楽寺観音菩薩立像をはじめ、中世に造立がさかのぼると伝わる仏像が市内寺院に複数ある。旧八幡神宮寺の仏像は、明治時代初めの神仏分離により市内の天台系寺院に移動したと伝わる。五加村文書・更級村文書は、旧五加村・更級村が作成した膨大な行政史料であり、近代の村落研究の基礎資料である。このほか、自治体誌記載の江戸時代以前の古文書が複数ある。更級地区扇平から密教法具一式が採集されているほか、山上の経塚から経筒が出土している。屋代地区一重山山麓から武蔵型板碑も出土しており、平安時代末期から中世の仏教文化をうかがい知ることができる。



武水別神社本殿・拝殿



扇平採集の密教法具

無形民俗文化財

八幡中原地区の獅子舞神楽は、その開始が宝暦年間と伝わる。市内はもとより旧更級郡、埴科郡一帯における神楽の発祥の地とされる。

記念物（遺跡）

倉科地区の鷲尾城をはじめ、良好に石積みが残る戦国時代の山城が複数あるが、縄張り範囲が未把握の城も多い。森・倉科地区、芝原地区の山中には、蚕種保管のため、自然の冷気を利用した明治時代の冷蔵施設である「風穴」が残されている。



森の風穴

記念物（植物）

八幡地区の斎ノ森神社や稲荷山地区治田神社にはケヤキの大木が所在する。

文化的景観

千曲市森・倉科地区には、茅葺民家の庭先にアズノ木が植えられており、春先にはアズノの花が咲く。景観の原形は大正時代ころに形成され、向井順吉をはじめとする農村風景絵画の対象地にもなった。

（6）特産品

ア おしぼりうどん（そば）

地大根（在来種の大根）をすりおろして搾った辛い汁に、味噌を溶かして釜揚げうどんを食べるもので、大根の採れる秋から冬のうどんの食べ方である。近年では、「おしぼりそば」も食べられるようになり、大根は冷蔵保存されて一年中食べられるようになった。



おしぼりうどん

イ おとうじ

冷や麦または素麺を茹でて、ひとかい（一掴分に丸めておく）ずつザルや半切りに並べておき、ちくわや野菜が入った醤油出汁を作っておく。茹でた麺をお湯にとうじて（湯でほぐして温める）、野菜の入った汁をかけて食べるものである。おとうじは、葬式や祭りなど、大勢の人が集まる時に振る舞われるものである。武水別神社の大頭祭では、必ずおとうじが作られ、祭り関係者だけでなく、見物人などだれにでも振る舞われる。



祭でふるまわれるおとうじ

ウ 干しあんずのしそ巻

干しあんずのしそ巻は各家庭で作られ、お茶とともに食される、あんず産地ならではの漬物の一つである。在来種のあんずは、千曲市域のどこの家でも屋敷の隅や畑の端に、1～2本植えられていた。現在は伐採されて数が少なくなったが、花の色が濃くきれいなあんずである。6月下旬から7月上旬、あんずが熟し落下したものを二つ割りにして種を取り出し、天日で良く干す。干したあんずを一つずつ、しその葉に包み、砂糖漬けにしたものである。



しそ巻きあんず

エ 川魚（ハヤのつけば）

4月下旬～6月下旬に千曲川の川原に設けた季節的な小屋（つけば）で、捕ったハヤ（アカウオ）を塩焼き・天ぷら・から揚げ等にして食べる千曲川の初夏の風物詩である。つけ場漁は、佐久市から長野市の犀川との合流点付近の間で行われ、ハヤが産卵のために小石に集まる習性を利用して漁をするもので、マヤ・割り川・上げ川の三つの漁法がある。



ハヤの塩焼き

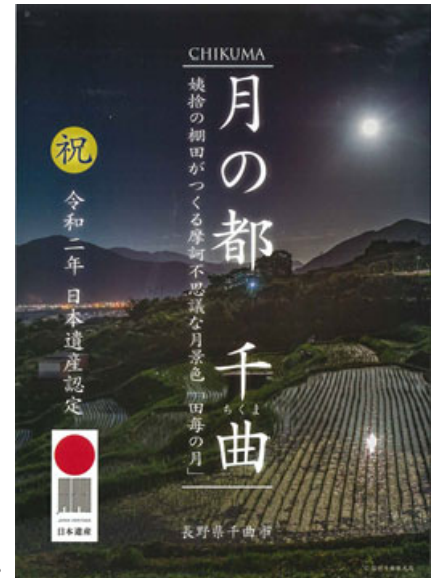
（7）日本遺産

概要 令和2年(2020)6月19日、「月の都千曲－姨捨の棚田がつくる摩訶不思議な月景色「田毎の月」－」が市単独の日本遺産に認定された。古くから月の名所で知られた姨捨山(冠着山)、姨捨の棚田や長楽寺、姨捨駅、麓の武水別神社や松田館など29の有形無形の文化財を3つのテーマに整理し、ストーリーにまとめたものである。

テーマ1 「古人の「遊び心」」では、月の名所としての千曲地域の成り立ち、発展の経過をたどっている。

テーマ2 「先人の「暮らしの知恵」」では、^{きろう}棄老物語や棚田の耕作などの「月の都」に暮らす、地域の人びとの営みを伝える。

テーマ3 「今に生きる「月見の地」」では、伝統的な月見の場所である長楽寺と、近現代における新たな月見の場所である、姨捨駅や姨捨サービスエリアを説明する。

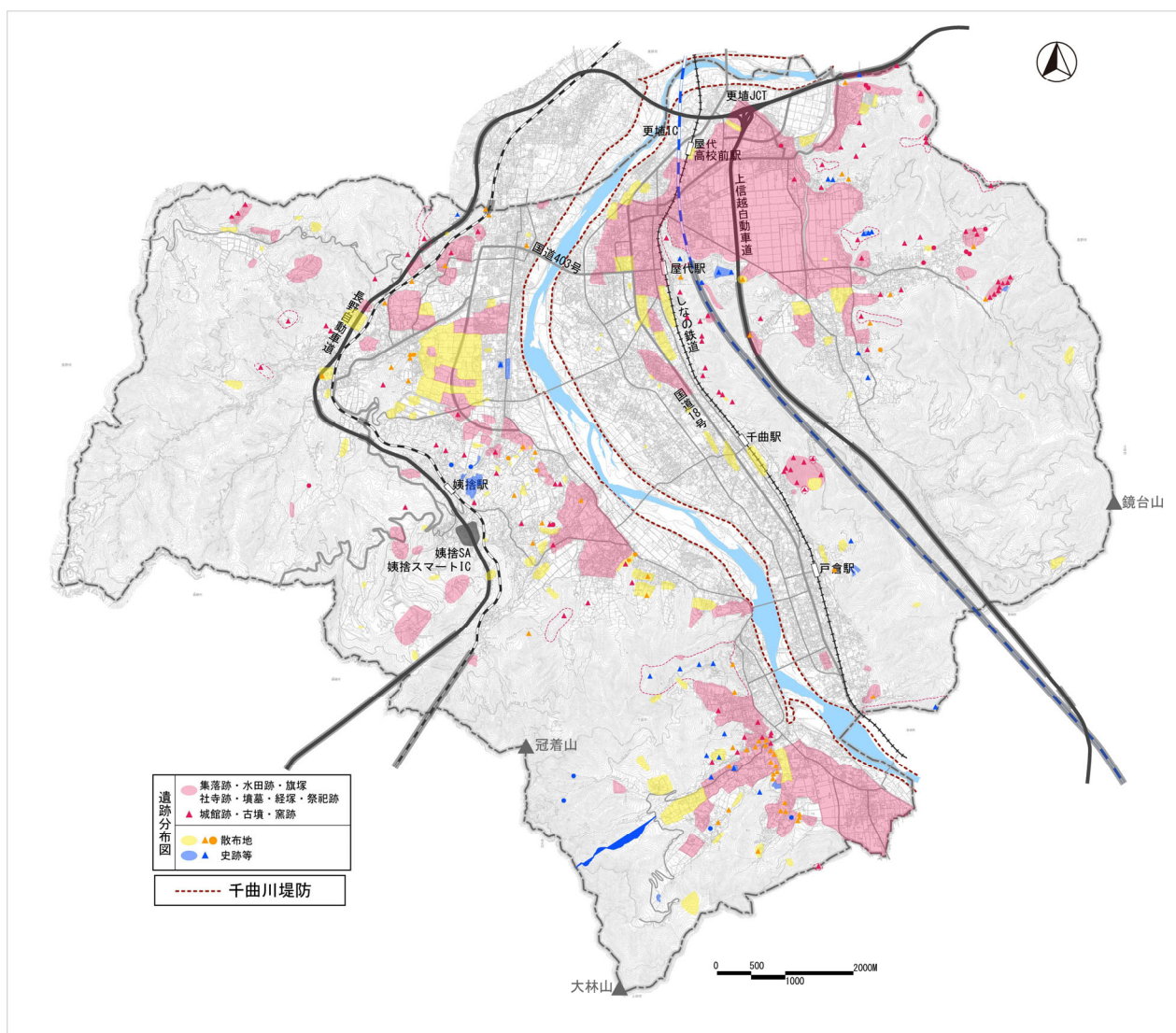


日本遺産 月の都 千曲

（8）埋蔵文化財包蔵地

市内では、周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）を 540 か所登録している。特に千曲川沖積地の自然堤防上や、後背湿地帯に集中している。自然堤防上では、弥生時代～中世の遺跡が重複しており、千曲川の洪水により埋没と復興を繰り返してきたことがわかる。屋代地区においてはほぼ全域が埋蔵文化財包蔵地の範囲として周知されているといつてよい。

また、扇状地や山間部には、縄文時代から平安時代の集落跡が広がる。山裾部には、古墳時代後期の小古墳群が、尾根上には、古墳時代前期から中期の古墳や、戦国時代の山城が築かれている。



周知の埋蔵文化財包蔵地地図